

2026年度

広島修道大学大学院

入学試験要項

人文科学研究科

博士前期（修士）課程

博士後期課程

目 次

学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）	1
入学試験制度と評価	5
人文科学研究科の概要	
1. 授業科目の区分	7
2. 各専攻の教育と特色	8
3. 大学院の教職課程について	13
募集要項	
博士前期（修士）課程	14
博士後期課程	30
2025年度人文科学研究科授業科目及び単位数	35
人文科学研究科授業科目担当専任教員の研究分野および研究テーマ	44
本学への交通案内・キャンパス案内	48
受験上の注意	49

【本学所定出願書類】

入学志願票・受験票・照合票
研究計画書
推薦書
長期履修学生願（社会人用 希望者のみ）
履歴書（シニア特別入学試験用 / 外国人留学生用）
留学にかかる収入予定書（外国人留学生用）
諸納付金減免申請書（外国人留学生用）

■個人情報の取り扱いについて

出願・入学手続における登録情報および出願書類に記載されている、氏名・性別・生年月日・住所・写真・その他の個人情報については、「個人情報の保護に関する法律」ならびに学校法人修道学園が定める「学校法人修道学園個人情報の保護に関する規程」および「個人情報の保護に関する方針」に基づき、取得した個人情報の漏洩、流出、不正利用等がないよう必要かつ適正な管理を行い、入学試験の実施、入学手続、入学予定者に対して行う各種事業、入学者に対する入学後の教育指導及び、これらに付随する業務のために使用するほか、個人が特定できない形に処理した上で、入学試験制度に関する各種統計処理等のために利用します。

また、上記業務の一部を外部業者等に委託し、個人データを提供する場合があります。その場合、本学が委託先に対し、契約等により必要な事項等を定めることで、当該個人データの安全管理が図られるよう必要かつ適切な監督を行います。

なお、本学の個人情報保護への取り組みについては、下記の2次元コードからご確認ください。

<https://www.shudo-u.ac.jp/privacy.html>



詳細は本学公式Webサイトをご覧ください。

〔博士前期課程および修士課程〕

人文科学研究科は、広島修道大学大学院の定めるアドミッション・ポリシーに基づき、博士前期課程および修士課程において、心理学、社会学、教育学、英文学、米文学、英語学、応用言語学の分野を意欲的に研究する能力をもつ学生を広く国内外から受け入れるため、以下の通り学生の受け入れ方針を定めます。

1. 入学者に求める能力

- (1) 人文科学研究科で学ぶために必要な学力を有し、将来専門的職業人となるため専攻分野における専門的な知識・技能を修得している人
- (2) 心理学、社会学、教育学、英文学、米文学、英語学、応用言語学の分野に深い関心を持ち、自ら問題意識を持って研究を行ない修士論文・特定課題研究論文を作成する意欲がある人
- (3) 専攻及び関連分野の知識と見方を融合し、柔軟な思考力を持って国際社会及び地域社会の一員として活動できる人

2. 入学後に涵養する能力

人文科学研究科は、博士前期課程及び修士課程の入学者に対して、カリキュラム・ポリシーに基づく教育課程を通じ、ディプロマ・ポリシーに定めるとく、各専門分野における高度な知識・技能を土台として研究を遂行する能力、専門的職業人として自立しうる能力、現代社会の諸問題を解決する能力、そして国際感覚を踏まえつつ地域社会に貢献する能力を涵養します。

〔博士後期課程〕

人文科学研究科は、広島修道大学大学院の定めるアドミッション・ポリシーに基づき、博士後期課程において心理学、英文学、米文学、英語学、応用言語学の分野の高度な知識を修め研究を行う意欲と能力のある学生を広く国内外から受け入れるため以下の通り学生の受け入れ方針を定めます。

1. 入学者に求める能力

- (1) 将来高度な知識と研究成果を生かした専門的な業務に従事するために、専攻分野の高度で専門的な知識・技能を修得している人
- (2) 心理学、英文学、米文学、英語学、応用言語学の分野において、主体的な研究者として専門的な問題意識と研究課題を持ち研究を行う意欲がある人
- (3) 将来専攻及び関連分野の高度な知識と研究成果を生かし、多様な人々と協創して専門的な業務に従事することを希望する人

2. 入学後に涵養する能力

人文科学研究科は、博士後期課程の入学者に対して、心理学及び英文学、米文学、英語学、応用言語学の分野において、カリキュラム・ポリシーに基づく教育課程を通じ、ディプロマ・ポリシーに定めるとく、高度かつ専門的な知識を修め研究者として主体的かつ独創的な研究を行なう能力、専門的職業人に求められる高度の学識と思考力、そしてグローバルな視点を踏まえつつ社会的諸問題に対処し解決する能力を涵養します。

人文科学研究科心理学専攻 学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）

詳細は本学公式Webサイトをご覧ください。

〔博士前期課程〕

人文科学研究科心理学専攻は、広島修道大学大学院の定めるアドミッション・ポリシーに基づき、広く国内外から学生を受け入れるため、以下の通り学生の受け入れ方針を定めます。

1. 入学者に求める能力

- (1) 人間のこころと行動に深い関心を持ち、主体的に研究活動や実践活動ができる人
- (2) 心理学に関する基礎的知識と技能を持ち、さらに心理学に関する高度な専門的知識と実践的スキルを身につけたい人
- (3) 高度な専門的職業人として社会に貢献する強い意欲を持つ人

2. 入学後に涵養する能力

心理学専攻博士前期課程の入学者に対して、カリキュラム・ポリシーに基づく教育課程を通じ、ディプロマ・ポリシーに定めるごとく、現代社会における人間のこころと行動に関する諸課題を実証科学的に分析し、客観的・論理的根拠を持って課題の解決をはかることができる能力を涵養し、心理学の高度な専門性を有する人材を養成します。

〔博士後期課程〕

人文科学研究科心理学専攻は、広島修道大学大学院の定めるアドミッション・ポリシーに基づき、広く国内外から学生を受け入れるため以下の通り学生の受け入れ方針を定めます。

1. 入学者に求める能力

- (1) 心理学領域および関連領域において、研究者として自立して研究活動を行おうとする人
- (2) 心理学領域および関連領域において、高度に専門的な業務に従事して実践的研究活動を行おうとする人
- (3) 将来専攻及び関連分野の高度な知識と研究成果を生かし、多様な人々と協創して専門的な業務に従事することを希望する人

2. 入学後に涵養する能力

心理学専攻博士後期課程の入学者に対して、カリキュラム・ポリシーに基づく教育課程を通じ、ディプロマ・ポリシーに定めるごとく、心理学の専門領域及び関連領域に関する高度な専門的知識と技能に基づき心理学的視点で現代社会の諸課題を解決できる能力を涵養し、独創的な研究を自立して遂行することができる研究者や高度な専門性を要する心理専門職業人を養成します。

人文科学研究科社会学専攻 学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）

詳細は本学公式Webサイトをご覧ください。

人文科学研究科社会学専攻は、大学卒業程度の学力を有し、社会学を学ぶ意欲と資質を持つ人を広く受け入れるため、学生の受け入れ方針を以下の通り定めます。

1. 入学者に求める能力

- (1) 本研究科で学ぶために必要な学力を有し、社会学に深い関心と自主的に学び研究する意欲の

ある人

- (2) 自らの研究テーマや問題意識を鮮明に持つと同時に、「自己の社会的目標」を明確に描くことができる人
- (3) 社会学に関する専門的知識と課題解決能力を身につけ、専門職業人として社会で活躍することを希望する人
- (4) 複数分野の知識を融合し、複眼的な視点から思考できる能力を身につけ、地域社会の一員として活動することを希望する人

2. 入学後に涵養する能力

社会学専攻修士課程の入学者に対して、カリキュラム・ポリシーに基づく教育課程を通じ、ディプロマ・ポリシーに定めるとく、現代社会に生起している諸問題・諸現象を理解するための専門的な知識・スキルを修得しそれを実践する能力を涵養し、現代社会に対応する社会学的応用力を身につけ、社会の様々な分野で活躍する能力を有する人材を養成します。

人文科学研究科教育学専攻 学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）

詳細は本学公式Webサイトをご覧ください。

人文科学研究科教育学専攻は、広島修道大学大学院の定めるアドミッション・ポリシーに基づき、学生の受け入れ方針を以下のように定め、国内外から学生を受け入れます。

1. 入学者に求める能力

- (1) 本専攻で学ぶために必要な学力を有し、人間の発達と形成に関する専門的な知識・技能を習得している人
- (2) 人間の発達と形成に深い関心を持ち、自ら問題意識を持って調査・研究を行い、その成果を体系的にまとめ、修士論文・特定課題研究論文を作成する意欲がある人
- (3) 人間の発達と形成及び関連分野の知識と見方を融合し、柔軟な思考力を持って国際社会及び地域社会の一員として活動できる人

2. 入学後に涵養する能力

教育学専攻修士課程の入学者に対して、カリキュラム・ポリシーに基づく教育課程を通じ、ディプロマ・ポリシーに定めるとおり、「人間の発達と形成」をめぐる現実的諸問題に関する高度な知識と能力を涵養し、それら諸問題の関連分野において専門的研究や専門的職業に携わる人材を養成します。

人文科学研究科英文学専攻 学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）

詳細は本学公式Webサイトをご覧ください。

〔博士前期課程〕

人文科学研究科英文学専攻は、広島修道大学大学院の定めるアドミッション・ポリシーに基づき、博士前期課程において、英文学、米文学、英語学、応用言語学の分野を意欲的に研究する能力を持つ学生を広く国内外から受け入れるため、以下の通り学生の受け入れ方針を定めます。

1. 入学者に求める能力

- (1) 人文科学研究科英文学専攻で学ぶために必要な学力を有し、将来専門的職業人となるため専

攻分野における専門的な知識・技能を修得している人

- (2) 英文学、米文学、英語学、応用言語学の分野に深い関心を持ち、自ら問題意識を持って研究を行ない修士論文・特定課題研究論文を作成する意欲がある人
- (3) 英文学、米文学、英語学、応用言語学及び関連分野の知識と見方を融合し、柔軟な思考力を持って国際社会及び地域社会の一員として活動できる人

2. 入学後に涵養する能力

人文科学研究科英文学専攻は、博士前期課程の入学者に対して、カリキュラム・ポリシーに基づく教育課程を通じ、ディプロマ・ポリシーに定めるごとく、各専門分野における高度な知識と技能を土台として研究を遂行する能力、専門的職業人として自立しうる能力、現代社会の諸問題を解決する能力、そして国際感覚を踏まえつつ地域社会に貢献する能力を涵養します。

〔博士後期課程〕

人文科学研究科英文学専攻は、広島修道大学大学院の定めるアドミSSION・ポリシーに基づき、博士後期課程において英文学、米文学、英語学、応用言語学の分野の高度な知識を修め研究を行う意欲と能力のある学生を広く国内外から受け入れるため以下の通り学生の受け入れ方針を定めます。

1. 入学者に求める能力

- (1) 将来高度な知識と研究成果を生かした専門的な業務に従事するために、専攻分野の高度で専門的な知識・技能を修得している人
- (2) 英文学、米文学、英語学、応用言語学の分野において、主体的な研究者として専門的な問題意識と研究課題を持ち研究を行う意欲がある人
- (3) グローバルな視点を持ち、将来、英文学、米文学、英語学、応用言語学及び関連分野の高度な知識と研究成果を生かし、多様な人々と協創して専門的な業務に従事することを希望する人

2. 入学後に涵養する能力

人文科学研究科英文学専攻は、博士後期課程の入学者に対して、英文学、米文学、英語学、応用言語学の分野において、カリキュラム・ポリシーに基づく教育課程を通じ、ディプロマ・ポリシーに定めるごとく、高度かつ専門的な知識を修め研究者として主体的かつ独創的な研究を行なう能力、専門的職業人に求められる高度の学識と思考力、そしてグローバルな視点を踏まえつつ社会的諸問題に対処し解決する能力を涵養します。

人文科学研究科心理学専攻の入学試験制度と評価

人文科学研究科心理学専攻は、博士前期課程において、下記の入学試験制度ごとに、「入学者に求める能力」について評価し選抜します。

- (1) 一般入学試験：個別学力試験に基づく知識及び思考力等の評価に重点を置き、研究計画書及び口述試験に基づく研究意欲の評価を加味して、総合的に評価します。
- (2) 学部生推薦入学試験：心理科学領域においては、本学に在学する卒業見込みの者のうち、出願時に卒業所要単位の4分の3以上の単位を修得し、かつ修得した単位の50%以上がA評価以上であることを出願資格として設け、加えて研究計画書に基づく口述試験を行い、総合的に評価します。臨床心理学領域においては、本学に在学する卒業見込みの者のうち、出願時に110単位以上の単位を修得し、かつ3年次終了時の累積GPAが3.0以上であることを出願資格として設け、加えて研究計画書に基づく口述試験を行い、総合的に評価します。
- (3) 外国人留学生入学試験：個別学力試験に基づく知識及び思考力等の評価に重点を置き、研究計画書をはじめとする提出書類及び口述試験に基づく日本語能力と研究意欲の評価を加味し、総合的に評価します。
- (4) 社会人入学試験：小論文形式による個別学力試験に基づく知識及び思考力等の評価に重点を置き、研究計画書をはじめとする提出書類及び口述試験に基づく研究意欲の評価を加味し、総合的に評価します。

博士後期課程では、下記の入学試験制度ごとに、「入学者に求める能力」について評価し選抜します。

- (1) 一般入学試験：個別学力試験に基づく知識及び思考力等の評価に重点を置き、研究計画書及び口述試験に基づく研究意欲の評価を加味して、総合的に評価します。
- (2) 外国人留学生入学試験：個別学力試験に基づく知識及び思考力等の評価に重点を置き、研究計画書をはじめとする提出書類及び口述試験に基づく日本語能力と研究意欲の評価を加味し、総合的に評価します。

人文科学研究科社会学専攻の入学試験制度と評価

社会学専攻では、下記の入学試験制度ごとに、「入学者に求める能力」について評価し選抜します。

- (1) 一般入学試験：個別学力試験に基づく学力評価に重点を置き、研究計画書および口述試験に基づく研究意欲の評価を加味して、総合的に評価します。
- (2) 学部生推薦入学試験：国内の大学に在学する卒業見込みの者のうち、出願時に卒業所要単位の4分の3以上の単位を修得し、かつ修得した単位の50%以上がA評価以上であることを出願資格として設け、加えて研究計画書に基づく口述試験を行い、総合的に評価します。
- (3) 外国人留学生入学試験：個別学力試験に基づく学力の評価に重点を置き、研究計画書をはじめとする提出書類および口述試験に基づく日本語能力と研究意欲の評価を加味し、総合的に評価します。
- (4) 社会人入学試験：個別学力試験に基づく学力試験の評価に重点を置き、研究計画書をはじめとする提出書類および口述試験に基づく研究意欲の評価を加味し、総合的に評価します。
- (5) シニア特別入学試験：研究計画書をはじめとする提出書類および口述試験に基づく研究意欲の評価を加味し、総合的に評価します。
- (6) 社会人入学試験・シニア特別入学試験の志願者には、社会生活において無理なく研究活動を遂行できるように、長期履修学生制度を選択可能とする。

人文科学研究科教育学専攻の入学試験制度と評価

教育学専攻では、下記の入学試験制度ごとに、「入学者に求める能力」について評価し選抜します。

- (1) 一般入学試験：個別学力試験に基づく学力評価に重点を置き、研究計画書および口述試験に基づく研究意欲の評価を加味して、総合的に評価します。
- (2) 学部生推薦入学試験：本学に在学する卒業見込みの者のうち、出願時に卒業所要単位の4分の3以上の単位を修得し、かつ修得した単位の50%以上がA評価以上であることを出願資格として設け、加えて研究計画書に基づく口述試験を行い、総合的に評価します。
- (3) 外国人留学生入学試験：個別学力試験に基づく学力の評価に重点を置き、研究計画書を始めとする提出書類および口述試験に基づく日本語能力と研究意欲の評価を加味し、総合的に評価します。
- (4) 社会人入学試験：個別学力試験に基づく学力試験の評価に重点を置き、研究計画書を始めとする提出書類および口述試験に基づく研究意欲の評価を加味し、総合的に評価します。

人文科学研究科英文学専攻の入学試験制度と評価

博士前期課程では、下記の入学試験制度ごとに、「入学者に求める能力」について評価し選抜します。

- (1) 一般入学試験：個別学力試験に基づく学力評価に重点を置き、研究計画書および口述試験に基づく研究意欲の評価を加味して、総合的に評価します。
- (2) 学部生推薦入学試験：本学に在学する卒業見込みの者のうち、出願時に卒業所要単位の4分の3以上の単位を修得し、かつ修得した単位の50%以上がA評価以上であることを出願資格として設け、加えて研究計画書に基づく口述試験を行い、総合的に評価します。
- (3) 外国人留学生入学試験：個別学力試験に基づく学力の評価に重点を置き、研究計画書を始めとする提出書類および口述試験に基づく日本語能力と研究意欲の評価を加味し、総合的に評価します。
- (4) 社会人入学試験：個別学力試験に基づく学力試験の評価に重点を置き、研究計画書を始めとする提出書類および口述試験に基づく研究意欲の評価を加味し、総合的に評価します。

博士後期課程では、「入学者に求める能力」および資質等を有する学生を選抜するために(1)一般入学試験、(2)外国人留学生入学試験を実施します。

- (1) 一般入学試験：個別学力試験に基づく学力評価に重点を置き、研究計画書および口述試験に基づく研究意欲の評価を加味して、総合的に評価します。
- (2) 外国人留学生入学試験：個別学力試験に基づく学力の評価に重点を置き、研究計画書を始めとする提出書類および口述試験に基づく日本語能力と研究意欲の評価を加味し、総合的に評価します。

人文科学研究科の概要

本学の人文科学研究科は、人文学部の人間関係学科、社会学科、教育学科と英語英文学科および健康科学部心理学科を基盤にしています。

研究対象は、精神的な「ひと」を中心にした人文科学です。人文科学は、広く人間、文化、社会、教育にかかわる現象を研究対象とします。したがって、言語と文学、認識と存在、表象と行為、個人と社会、学校と家庭、福祉と法律、民族と伝統、精神の構造と機能、人間と環境、発達と教育、制度と教育史、心と体、実験と調査、イメージと情報、研究法などの研究分野に関わる一定の知識と技法を修得することがねらいとされます。大学院は、単に専門的知識の伝達の間では済まされず、創造性を求められ、専門分野における知的行為を主体としてやりこなしていくための技法を訓練する専門的な場です。そこには当然ながら普遍性が尊重されます。要はアカデミックなものとプロフェッショナルなものの追求が本学人文科学研究科に課せられています。

1. 授業科目の区分

各専攻の授業科目は、その内容にしたがって、次のように区分されています。

(1) 博士前期課程・修士課程

① 講義

講義では、専攻分野にかかわる知的深化と修得を目指し、自専攻における研究対象を中心に開講されますが、さらに新研究の展開など、大学院研究科専攻生としての研究の進化と動機付けがねらいです。

② 演習

演習では、発表や討議、作業を通して、講義で学ぶ内容の専門的思考の訓練をねらいとしています。

③ 実験研究／調査演習（心理学専攻及び社会学専攻のみの開設授業科目）

実験研究／調査演習では、フィールドワークやサーベイ、アンケート調査の実施方法、変数や要因を統制した因果関係的実証研究法を修得することをねらいとしています。

④ 実習（心理学専攻臨床心理学領域のみの開講授業科目）

心理実践の実際として、心理検査、心理面接、被支援者の理解とニーズの把握および支援計画の作成、チームアプローチ、多職種連携、地域連携について理解し、基本的な技術を修得することをねらいとしています。

⑤ 研究指導

研究指導では、指導教員のもとに、継続的に研究活動をおこない、最終的に学位論文を作成することが目的とされています。

⑥ 課題研究

指導教員の個人指導を中心として、特定の課題にとりくみ、課題研究論文を作成します。

※ 教育学専攻・英文学専攻については、修士論文コース、課題研究コースのいずれかを選択しなければならない。

(2) 博士後期課程

博士後期課程においては、指導教員の担当する研究指導において、国内外の専門学術雑誌等の講読・吟味をはじめ、博士の学位論文や専門的な学術書に関連する公表論文をまとめる指導等を行うことにしています。また、この研究指導を補強する授業科目としての特講が開設されています。

2. 各専攻の教育と特色

各専攻の教育と特色は以下のとおりです。

(1) 心理学専攻

心理学専攻は、1978年に修士課程（現博士前期課程）が開設され、西日本では3番目の心理学専攻の大学院として発足した。1981年には博士後期課程の設置が認可され、博士の学位を授与するに至っている。2019年には、博士前期課程に心理科学領域と臨床心理学領域の2領域が設置された。

心理学専攻では、基礎心理学と臨床心理学の融合を背景に、基礎心理学と臨床心理学の各専門領域に豊富な授業科目を担保し、心理学全般にわたる専門知識と技能を習得するとともに実証的かつ実践的な研究を推進できる教育課程を編成している。また、人間のこころと行動に関する諸課題を実証科学的に分析し、客観的・論理的根拠を持って課題を解決するための技量を身につけることを目標として、心理学の各専門領域に関する講義と演習ならびに研究指導などの授業科目を配置している。各課程・領域の特色は以下の通りである。

【博士前期課程心理科学領域】

博士前期課程心理科学領域の授業科目は、(a) 精神生理学、(b) 認知心理学、(c) 社会心理学、(d) 発達心理学、(e) 教育心理学、(f) 応用心理学の6つの専門分野を中心に構成されている。大学院生は、まず6つの分野のうち1つの専門分野を担当する教員を指導教員と定め、指導教員が担当する講義、演習、実験研究、研究指導を必修科目として履修し、その他の教員が担当する科目を選択科目として履修する。

【博士前期課程臨床心理学領域】

博士前期課程臨床心理学領域の特色として、以下の3点が挙げられる。

①ダブルライセンスを目指す

公認心理師と臨床心理士の養成に対応したカリキュラム内容となっており、これらを修得することで2つの資格取得を目指すことが可能である。

②基礎心理学の知識・技能を生かす

実験・調査・観察など基礎心理学の知識や技能を学べる環境が整っており、それを基盤として、心理専門家としての知識・技能・臨床実践力を身につけることができる。さらに基礎心理学的アプローチ等によって、実践した心理支援の効果検証等の実証的研究を行うことができるようになる。

③地域に根付いた実践を行う

学内実習施設として臨床心理相談センターが設置されており、「乳幼児から高齢者まで地域に開かれた相談の場」として地域の方の様々な相談に対応している。大学院生は、臨床心理士、公認心理師の資格を持つ教員の指導を受けながら研修相談員としてカウンセリングや心理検査などの実習を行い、臨床実践力を培う。

【博士後期課程】

博士後期課程は、(a) 精神生理学、(b) 臨床心理学、(c) 認知心理学、(d) 社会心理学、(e) 発達心理学の5つの専門分野を設置し、それぞれを担当する教員が研究指導を開講している。大学院生は5つの分野のうち1つの専門分野を担当する教員を指導教員と定め、指導教員が担当する研究指導を履修する。

(2) 社会学専攻

新世紀を迎えたいま、「グローバル化」「情報化」「超高齢化」という急激な社会変動のなかで、日本社会は、未だ経験したことのない様々な問題に直面している。そして、現代社会を生きる個々の人間には、自らの価値観や生活の質、文化のあり方や生き方の方向性が問われるとともに、これらの問題にアクチュアルに対応できる人材が社会の様々な分野で要請されている。本大学院社会学専攻（修士課程）は、社会学の専門的な研究を通じて、現代社会に生起している諸問題・諸現象を理解するための専門的な知識を修得し、かつ、現代社会に対応する社会的応用力を身につけ、社会の様々な分野で活躍することのできる人材の養成を目的としている。

社会学専攻の授業科目は、①国際社会学、②コミュニケーション論、③カルチュラル・スタディーズ、④現代社会論、⑤クィア・スタディーズ、⑥社会意識論、⑦感情社会学、⑧社会調査論、⑨社会問題の社会学という9つの専門分野を中心に構成されている。それぞれの専門分野には、「講義」、「演習」、「調査演習」の授業が開設され、さらに修士論文の作成を指導するための「研究指導」が設けられている。

これらの専門分野の特色は、以下の通りである。

① 国際社会学

今日、交通・通信手段の急激な発達によって、私たちを取り巻く国際的な社会環境は大きく変化しつつある。こうした変化の中では、日本を含めた先進社会の問題は、あくまで全世界的状況の一部として、再構成されることが求められている。国際社会の多様な側面を取り上げ、それらを比較検討することを通じて、今後の国際社会の方向性を探っていくことが、国際社会学の課題である。

② コミュニケーション論

日常生活においてことさら意識することなく行っているコミュニケーションについて、さまざまな視点を通して今日的課題について検討する。コミュニケーションという言葉は、日常的には人と人との対面的コミュニケーションを想起するが、それだけではない。現代社会においては、メディアを介したコミュニケーションがますます重要になりつつある。対面的／メディアを介したコミュニケーションのあり方について、さらにITという言葉に代表される情報化はコミュニケーションのあり方にどのような変容をもたらすのかについて探求する。

③ カルチュラル・スタディーズ

カルチュラル・スタディーズは、人種差別に対抗する文化的闘争のなかで誕生した。音楽・映像・文学等を通じた文化的運動が、差別に対抗する手段として、きわめて重要な役割をはたしてきたことは、「文化を武器にする」ということばで表すことができる。特に、黒人文化においてその傾向は顕著であり、カルチュラル・スタディーズは、「運動する学問」「学問する運動」として発展してきたといえよう。ここでは、黒人の文化的運動を中心に、差別を解消することを通して、社会を変革する方法について探求する。

④ 現代社会論

20世紀は、人間社会に、未曾有な物質的豊かさをもたらした一方で、多種多様な課題を21世紀へと提起した。現代社会を生きる私たちは、「南北問題」「グローバル化」「人口増大」「環境破壊」「モラルパニック」など、解決を迫られる多くの社会問題に直面している。現代社会論とは、未来社会へのビジョンをもって過去（歴史）を見直すことによって、現代を解説しようとする知的試みである。ここでは、現代社会における社会構造の変動と社会意識の変容を関連づけて捉えることを基本的視点として、都市、マーケット、

ポピュラー文化、性愛、風俗、犯罪、サービス、精神・心などの領域に生じている社会現象・問題を検討する。

⑤ クィア・スタディーズ

「クィア」という考え方は、主に1980年代終わりから90年代初頭のアメリカで登場し、その後、学問研究／運動・実践の双方の領域で展開されてきた。1991年にテレサ・デ・ラウレティスが「クィア理論」という用語を提唱したことは、クィア・スタディーズという学問分野が形成された画期ともいえる。クィア・スタディーズ以前のレズビアン／ゲイ・スタディーズ、その後のクィア・スタディーズにおいて醸成された理論がいかに現実の諸問題のなかから生まれ、またそうした問題自体に介入しようとしてきたかについて体系的に理解し、クィア前史、クィア理論とフェミニズムとの関連／分離、フーコーによる影響、エイズ問題におけるクィア理論の活用などを取り上げる。さらに、ネオリベラリズム体制の浸透によって生起する、おもにセクシュアリティをめぐる諸問題に焦点をあて、クィア理論によって現実に生起する諸問題を分析する方法を、消費社会、文化、表象、家族における諸問題、グローバル化などの問題と関連させて考察する。

⑥ 社会意識論

社会意識とは「ある社会集団の成員に共有されている意識（心性）」として定義され、階級・階層・世代・民族・職業・性別などの客観的な存在諸条件によって規定される。ここでは、犯罪、ジェンダー／セクシュアリティ、家族、ファッションなど、様々な社会現象を事例として、現代社会における社会意識の変容過程を解明していく。

⑦ 感情社会学

人間は社会生活の様々な場面で適切な感情表出を求められる。とりわけ現代社会では、賃金報酬のために働く際にも、多くの労働者は感情規則にもとづく表層演技や深層演技を行うことを期待されている。接客業に代表されるように、他者との対面的状況で、他者に対して適切な感情を抱かせ、自らの感情を監視・管理し続ける仕事を「感情労働」と呼ぶけれども、現実には、社会生活全般において、多くの人々が感情労働と同様に活動せざるを得なくなっている。感情社会学は、感情をめぐる生起する人間社会の問題に関して、社会学的な視点からアプローチしていく。

⑧ 社会調査論

社会調査とは、急速に変容していく現代社会を捉えていくための、有力なツールの一つであるとともに、自らの社会における位置づけを知る上で重要な手掛かりとなる。社会調査論では、社会調査の歴史、調査企画、量的社会調査の方法、質的社会調査の方法、データの取得、データの分析、データの解釈、調査データにもとづいた調査報告書や研究論文の作成まで、実践的な社会調査のスキルを身につけ、現代社会を把握するための社会調査のあり方をさぐっていく。

⑨ 社会問題の社会学

社会問題は、「これが問題である」とクレームを申し立てる社会成員やグループ、メディアなどによる主観的な活動がせめぎ合って構築されていきます。こうした「社会問題の構成過程」を明らかにしていくのが、「社会問題の社会学」です。ここでは、社会における「生きにくさ」を社会問題としてとらえていく社会学的思考と方法について探求していきます。とりわけ、家族・雇用・地域コミュニティなどが脆弱化し、自己責任化が進行していく「個人化社会」において、自己責任に帰され不可視化されていく「生きにくさ」を、社会問題として構成していくための課題と可能性について考えていきます。

院生は、まず、上記の9つの分野のうち、一つを主専攻科目として選択し、その専門分野

を担当する教員を指導教員と定め、指導教員が担当する「研究指導」「講義」「演習」を受講し、さらに必要な場合には「調査演習」を受講する。また、院生は、主専攻以外に副専攻科目として2から3専攻科目を選択し、「講義」もしくは「演習」を受講する。

社会学専攻においては、社会学という学問分野の特殊性に鑑みて、パターン化された履修モデルを設定しない。つまり、院生個々人の研究テーマにあわせて、履修すべき講義科目を設定する。したがって、院生は、大学院入学後に研究計画を作成する際、指導教員の指導のもとに、自らの研究テーマに即した講義の履修計画をたてる。その際、必要であれば、他専攻及び他研究科で開講されている講義科目を履修する。

社会学専攻の授業では、「講義」科目においても、院生には毎時間の授業に備えた相当の準備を行うことが要求される。また、授業では、ディスカッションやプレゼンテーションなどのコミュニケーション能力を高めていくことが目指される。

社会学専攻は、昼夜開講制を導入しており、研究者の養成のみならず、民間組織や政府機関などを含めて、社会の広範な分野で活躍することのできる人材を育成することを教育目標としている。院生には、自らの研究テーマや問題意識を鮮明に持つと同時に、「自己の社会的目標」を明確に描くことが期待される。

なお、本専攻で修士課程を修めた後、他大学院博士課程への進学を希望する者は、指導教員からそのための指導を受けることができる。

(3) 教育学専攻

人文科学研究科教育学専攻（修士課程）は、大学で教育学関係の分野を学んだ人、あるいは、それ以外の分野を学んだ後、教育学や教育をめぐる諸問題について研究や思考を深めたいと希望する人に専門的な研究と教育の機会を提供し、教育に関するより高度な専門的能力と実践的能力をもつ人材を養成することを目的としている。

近年の社会の急激な変化にともない、教育をめぐる問題も急激に増加し、拡大し、多様化してきた。こうした状況に対応するため、本学大学院教育学専攻では以下に示す8分野にわたって授業科目を用意し、それぞれの視点から研究教育を進めるよう構成されている。すなわち、①教育基礎論、②教育政策論、③教育社会学、④生涯学習論、⑤教育方法学、⑥教科教育学、⑦特別支援教育、⑧幼児教育学の8分野である。これらの8分野にはそれぞれ「講義」と「演習」の授業科目が開設されており、さらに、「修士論文」の作成を指導するための「研究指導」と、「課題研究論文」の作成を指導するための「課題研究」の授業が開設されている。

「修士論文コース」を選択する院生は、上記8つの分野のうちの1つを主専攻分野として選び、その分野を担当する教員を指導教員と定め、指導教員が担当する「研究指導」4単位並びに当該分野の授業科目「講義」4単位及び「演習」4単位を履修するように定められている。

「課題研究コース」を選択する院生は、第2学年の前期と後期に「課題研究」各2単位を履修するように定められている。

そのほか、「修士論文コース」を選択する院生も、「課題研究コース」を選択する院生も、自分の研究課題に関連する科目や関心のもてる分野の授業を受講し、教育学や教育をめぐる諸問題について広い視野から研究や考察を進めていくことが求められている。

教育職員免許状に関しては、中学校「社会」、高等学校「地理歴史」または「公民」（または旧免許法による中学校・高校「社会科」免許状）及び小学校の一種免許状をすでに保有している者は、専修免許状取得に必要な授業科目24単位を修得し、かつ教育学専攻の修士課程を修了することによって、それぞれの専修免許状を取得することができることとなっている。

また、社会人入学を促進するために行われてきた入学試験制度の改革や昼夜開講制の採用にとともに、社会人の入学もより多くなっていくことが期待されている。かなりの期間にわたって職業生活や社会生活を経験した後大学院に入学し、専門的な研究と教育の機会をもつことによってさらなる自己実現を図り、大学院修了後は新しい職業や地位に従事して活躍する、あるいは、現職教員が昼夜開講制を利用して在職のまま大学院に入学し、教職免許状の上進を図るとともに、教育現場での経験に学問的アプローチを加えることによってユニークな研究教育活動を展開していくなど、多様な大学院生像の誕生が望まれる。

(4) 英文学専攻

大学院英文学専攻（博士前期課程）は、イギリス文学、アメリカ文学、英語学、応用言語学、イギリスとアメリカの文化研究の5分野からなり、それぞれの分野の講義と演習によって専門的な関心と研究を深めるとともに、イギリス、アメリカの文化研究に至る幅広い授業科目によって広い視野と見識を養成することを目的としている。それによって学生は主専攻とする分野の研究者の自覚と力量とともに、これからの時代を生きる国際人の視野を養うことが求められる。また本専攻では、博士前期課程を生涯教育の一環として位置づけ、上の各分野に関して高度の教養と学問的素養を身につけた社会人（中学・高等学校教員、一般職業人など）の養成も重要な目的としている。

授業時間については、学生の事情に応じて夜間に対応する場合もあるので、入学センターまたは教学センターに問い合わせること。

上の各分野の内容について以下に述べる。

- ① 英語学研究では、現代言語学の視点から「英語」の研究方法を修得することを目的とする。具体的には、英語の諸相（音韻、語彙、統語、意味等）を近年著しく発展している理論言語学、社会言語学、コーパス言語学等の手法を用いて、共時的、あるいは通時的に考察する。それによって、今や国際語として確固たる地位を確立している「英語」の姿を明らかにする。
- ② 応用言語学研究では、言語に関連する様々な視座からの諸理論及び研究方法を修得し、それを基に、各自のテーマについて研究する。具体的には、言語学、英語学など言語理論を応用し、第二言語習得や英語教育などの課題を追究する。
- ③ イギリス文学研究、④アメリカ文学研究では、英米の小説、詩、エッセイ、評論等のテキストの精読を通して、作品を解釈し、作品に現れた文化、社会、人間性のあり方を研究、理解して行く。表現の解釈によって柔軟な感受性と思考力を、またイギリス、アメリカの人間性や時代状況の理解を通して広い国際的視野を養う。

以上4つの分野では、それぞれ講義と演習各4科目が設けられている。

- ⑤ イギリスとアメリカの文化研究では、イギリスとアメリカの文化、歴史、社会の特定の項目について調査し研究する。それはそれ自身きわめて興味深い研究として成立するばかりでなく、将来の国際社会を生きるために有用な視点を養うことになるだろう。また上の4つの分野の背景的知識を得るためにもきわめて有用である。この分野のために「英米文化研究Ⅰ～Ⅵ」の科目が設けられている。

院生は、上の5つの分野から自分の専攻分野の科目ばかりでなく、関連科目や関心のもてる科目を幅広く履修することが求められる。それを通して各自の研究テーマへの知見を深め、修士論文コースの院生は、「研究指導」を履修することによって修士論文を仕上げ、課題研究コースの院生は、「課題研究」を履修して研究課題への考察をまとめる。

以上の課程を修めることによって、院生各自が、イギリス、アメリカの文学、文化、英語

学、応用言語学への深い見識とともに幅広い教養を得て、これからの時代を生きる指針とすることが望まれる。

3. 大学院の教職課程について

本研究科では、下表の「取得免許状一覧」に示すとおり、免許取得のための教職課程を設置しています。

これらの免許を取得するためには、小学校教諭一種免許状、中学校教諭一種免許状、高等学校教諭一種免許状授与の所要資格を有し、かつ、教育職員免許法および教育職員免許法施行規則に定める所要の単位を修得しなければなりません。該当の専修免許状を取得しようとする者のうち、未だ該当の一種免許状授与の所要資格を有していない場合は、これを充たす必要があります。この場合、一種免許状に必要な所定の単位が不足しているときは、広島修道大学学則第48条に規定する科目等履修生として、当該授業科目を履修しなければなりません。科目等履修のためには、科目等履修料の納付が必要ですが、本学大学院生が履修する教職科目については、年間10単位を上限に科目等履修料を免除しています（ただし、休学期間は除く）。科目等履修を希望する者は、各入学試験の出願前までに教学センター資格課程係（TEL 082-830-1127）へ問い合わせを行ってください。

なお、「教育実習」は、本学部の在学学生および卒業生のみが履修できる科目となっていますが、学部出身大学が他大学であっても、本学の大学院に在学している場合は、これに準じて取り扱うことになっています。

取得免許状一覧

研 究 科	専 攻	免許状の種類および教科
人 文 学 研 究 科 博士前期・修士課程	心 理 学 専 攻	中学校教諭専修免許状 社会 高等学校教諭専修免許状 地理歴史 高等学校教諭専修免許状 公民
	社 会 学 専 攻	中学校教諭専修免許状 社会 高等学校教諭専修免許状 公民
	教 育 学 専 攻	小学校教諭専修免許状 中学校教諭専修免許状 社会 高等学校教諭専修免許状 地理歴史 高等学校教諭専修免許状 公民
	英 文 学 専 攻	中学校教諭専修免許状 英語 高等学校教諭専修免許状 英語

募 集 要 項

博士前期（修士）課程

人文科学研究科心理学専攻、社会学専攻、教育学専攻、英文学専攻の学生を次のとおり募集する。

1 試験の種類および募集の方法

一般入学試験	第1次募集・第2次募集を行う。
外国人留学生入学試験	
社会人入学試験	
学部生推薦入学試験※	
シニア特別入学試験（社会学専攻）	

※心理学専攻臨床心理学領域の学部生推薦入学試験は第1次募集のみ行います。

2 募集人員

募 集 人 員		心理学専攻 12名		社会学 専 攻 5 名	教育学 専 攻 3 名	英文学 専 攻 3 名
		(心理科学領域)※ (2 名)	(臨床心理学領域)※ (10名)			
一 般 入 学 試 験	第1次募集	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名
	第2次募集	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名
外国人留学生入学試験	第1次募集	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名
	第2次募集	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名
社 会 人 入 学 試 験	第1次募集	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名
	第2次募集	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名
学部生推薦入学試験	第1次募集	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名
	第2次募集	若干名		若干名	若干名	若干名
シニア特別入学試験	第1次募集			若干名		
	第2次募集			若干名		

※入学後は領域を変更することはできません。

3 出願期間

第1次募集 2025年8月19日（火）～2025年8月26日（火）（締切日当日必着）

第2次募集 2026年1月26日（月）～2026年2月4日（水）（締切日当日必着）

※「一般入学試験の出願資格(8)」(18ページ参照) および「外国人留学生入学試験の出願資格(2)」(21ページ参照) にもとづく募集は第2次募集に限り行い、第1次募集は行いません。

4 試験日

第1次募集 2025年9月6日（土）

第2次募集 2026年2月14日（土）

5 試験場

本 学

6 合格者発表

第1次募集 2025年9月12日（金）

第2次募集 2026年2月21日（土）

7 入学手続

第1次募集

（1次手続） 2025年9月16日（火）～2025年9月30日（火）（期間厳守）

（2次手続） 2026年2月24日（火）～2026年3月3日（火）（期間厳守）

第2次募集

（一括手続） 2026年2月24日（火）～2026年3月3日（火）（期間厳守）

*期間内に入学手続きを完了しない場合は、いかなる理由があろうとも入学を許可しません。

*入学手続き（前期分諸納付金納入）を行った後に、入学を辞退する者については、入学金を除く前期分諸納付金を返還します。返還を希望する者は、「入学辞退届」を2026年3月31日（火）（**必着**）までに、入学センターに提出してください。

8 出願先

〒731-3195 広島市安佐南区大塚東1-1-1

広島修道大学 入学センター（TEL 082-830-1100）

〈注意〉願書は、速達簡易書留で郵送してください。

9 諸納付金

	社会学専攻 教育学専攻 英文学専攻	心理学専攻	
		心理科学領域	臨床心理学領域
入 学 金	220,000円	220,000円	220,000円
在 学 料	490,000円	630,000円	670,000円
初 年 度 合 計	710,000円	850,000円	890,000円
単 位 制 履 修 料 (長期履修学生のみ)	33,000円／1単位	42,000円／1単位	45,000円／1単位

*広島修道大学から入学する者の入学金は半額とする。

*入学金は入学年度のみ納入する。

*広島修道大学大学院博士前期課程（修士課程）から他研究科または他専攻の博士前期課程（修士課程）へ引き続き入学する者の入学金は免除とする。

10 奨学金制度

本学で取り扱っている奨学金は下表のとおりです。

種 別		貸 与 月 額
日本学生 支援機構	第一種奨学金(※)	(無利子) 50,000円または88,000円のいずれか希望する額
	第二種奨学金	(有利子) 5万円・8万円・10万円・13万円・15万円のうち希望により選択

※日本学生支援機構では、大学院において第一種奨学金の貸与を受けた学生であって、在学中に特に優れた業績を挙げた者として日本学生支援機構が認定した場合には、貸与期間終了時に第一種奨学金の全部または一部の返還が免除される「特に優れた業績による返還免除」という制度があります。詳細は、学生センター（082-830-1117）へ問い合わせてください。

大学院段階（修士課程・博士前期課程）における「授業料後払い制度」について

「授業料後払い制度」とは、在学中は授業料（本学でいう在学料）を納付せず、修了後の所得に応じて後払いするという貸与奨学金の制度です。授業料は、日本学生支援機構から大学に直接振り込まれ、対象者の授業料に充当されます。併せて生活奨学金として月額2万円または4万円の貸与を受けることができます。詳細は学生センター（082-830-1117）へ問い合わせてください。

11 外国人留学生諸納付金減免制度

広島修道大学では、外国人留学生を経済的に支援するための諸納付金減免制度を設けています。諸納付金減免を希望する人は、必要書類を出願書類とあわせて提出してください。

1. 申請資格

出入国管理および難民認定法別表第1に定める「留学」の在留資格を保有、または取得見込みの外国人留学生であって、経済的に修学が困難と認められるものであり、次の(1)から(3)をすべて満たす者

「留学」の在留資格を取得見込みの場合は、事前に国際センターへ問い合わせてください。

- (1) 母国から入学金・授業料等以外の仕送りがある場合、その平均月額が90,000円以下であること
- (2) 日本に居住する扶養者がある場合、その年収が500万円未満であること
- (3) 入学試験の成績が優秀であること

2. 提出書類

次の(1)および(2)すべての書類を出願書類とあわせて提出すること

- (1) 諸納付金減免申請書（本学所定用紙）
- (2) 在留資格を示す書類の写し（在留カード、もしくはパスポートの該当ページ）

※在留カードは両面コピーすること

3. 選考方法

入学試験成績および申請書一式により選考する。

4. 減免範囲および採用人数

減免範囲	採用人数
在学料の全額	入学試験の得点率上位21位以内の者
在学料の半額	入学試験の得点率上位22位から26位までの者

※大学院博士後期課程を優先し、残余数を大学院修士課程または博士前期課程に充てる

5. 減免対象期間

入学時から1年間（2年次以降は再度申請が必要）

6. 決定通知

諸納付金減免の採否決定通知は、第2次募集の合格発表日に速達で郵送します。

諸納付金減免に関する問い合わせ先
国際センター（082-830-1103）

12 その他

- (1) 障がいなどのある志願者で、受験上の配慮について要望がある場合、および入学後の就学について特別の配慮を必要とする場合は、出願に先立ち、第1次募集の場合2025年7月25日（金）、第2次募集の場合2026年1月9日（金）までに入学センターに問い合わせてください。
- (2) 願書は、速達簡易書留で郵送してください。
- (3) 志願票および出願書類の記載事項は、入学試験に係る事務処理に使用し、それ以外の目的に使用することはありません。
- (4) 教育ローン
公的な融資機関として日本政策金融公庫があります。相談については教育ローンコールセンター（TEL 0570-008656）へ問い合わせてください。

I. 一般入学試験

1 出願資格

次のいずれかに該当する者

- (1) 大学を卒業した者（見込みを含む）
- (2) 学校教育法第104条第7項の規定により学士の学位を授与された者（見込みを含む）
- (3) 外国において学校教育における16年の課程を修了した者（見込みを含む）
- (4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者（見込みを含む）
- (5) 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者（見込みを含む）
- (6) 専修学校の専門課程（修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者（見込みを含む）
- (7) 文部科学大臣の指定した者
- (8) 大学に3年以上在学した者であって、本研究科が定める所定の単位を優秀な成績で修得したと認めたもの（見込みを含む）
- (9) 学校教育法第102条第2項の規定により大学院に入学した者であって、本研究科において、大学院における教育を受けるにふさわしい学力があると認めたもの
- (10) 本研究科において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、2026年3月31日までに22歳に達したものの

注1）出願に先立ち入学センターに問い合わせたうえで、第1次募集は2025年7月25日（金）まで、第2次募集は2026年1月9日（金）までに教員と直接面談をすること。
なお、心理学専攻臨床心理学領域に出願する場合、臨床心理学領域の教員と直接面談をすること。

注2）出願資格(8)、(9)または(10)にもとづき出願する者は、出願に先立ち第1次募集においては2025年6月17日（火）、第2次募集においては2025年11月21日（金）までに入学センターに問い合わせたうえで、入学資格認定申請書（所定の用紙）を提出すること。ただし、出願資格(8)は第2次募集に限り行う。

注3）出願資格(8)の優秀な成績とは、大学3年間の修得単位の合計が110単位以上で、かつ、このうちA(優)以上の比率が85%以上であることが見込まれること。

注4）上記の出願資格のうち「見込み」による志願者については、入学試験合格後、2026年3月31日までに入学資格を満たすことができないことが確定した場合、入学を取り消すこととする。

2 出願書類

- (1) 入学志願票（本学所定の用紙）
- (2) 成績証明書（原本に限る）
- (3) 卒業または卒業見込証明書（原本に限る）〈左記出願資格(8)、(9)のうち15年修了見込者については在学証明書〉
- (4) 研究計画書（心理学専攻の志願者は、志望理由、卒業論文（卒業研究）等の研究概要、研究テーマおよび計画、本課程修了後の希望進路について本学所定の用紙に2,000字程度で記入。社会学専攻・教育学専攻・英文学専攻の志願者は、研究テーマ、志望理由および本課程修了後の希望進路について本学所定の用紙に800字程度で記入。文書作成ソフト可）
- (5) 外国人留学生の場合には、「履歴書」および「留学にかかる収入予定書」（本学所定の用紙）
*外国人留学生諸納付金減免制度については、16・17ページを参照すること。
- (6) 「心理学検定特1級・1級」合格証のコピー（該当者のみ）
- (7) 外部英語試験 証明書のコピー（該当者のみ）
- (8) 検定料 30,000円（郵便為替（普通為替）とし、普通為替証書には何も記入しないこと。）

3 試験科目

	心理学専攻 (心理科学領域) (臨床心理学領域)	社会学専攻	教育学専攻	英文学専攻
英 語	英語（両領域共通）	英 語	英 語	—
専 門 科 目	心理学 (共通問題・領域別問題)	社会学	教育学	英語学・英文学・ 米文学・応用言語学
口 述	口 述			

*心理学専攻…注1) 英語の試験については、語学辞書（電子式は除く）持ち込み可。

注2) TOEIC (Listening & Reading Test) もしくはTOEIC (Listening & Reading) IPテスト730点以上、TOEFL iBT 80以上、実用英語技能検定準1級以上、IELTS (アカデミック・モジュール) 5.5以上のいずれかを取得している者は、英語の試験を免除（満点）する。ただし、対象となるスコアは入学試験実施年度の4月1日から遡って5年前の日以後に受験したものに限り。

注3) 日本心理学諸学会連合「心理学検定特1級・1級」の合格者は、心理科学領域においては、「心理学」を免除（満点）し、臨床心理学領域においては、100点を超えない範囲で30点を加算する。

*社会学専攻…注1) 英語の試験については、語学辞書（電子式は除く）持ち込み可。

注2) TOEIC (Listening & Reading Test) 600点以上、TOEFL iBT 65以上、IELTS (アカデミック・モジュール) 5.5以上のいずれかを取得している者は、英語の試験を免除（満点）する。ただし、対象となるスコアは入学試験実施年度の4月1日から遡って5年前の日以後に受験したものに限り。

*教育学専攻…注1) 英語の試験については、語学辞書（電子式は除く）持ち込み可。

注2) TOEIC (Listening & Reading Test) 600点以上、TOEFL iBT 65以上、IELTS (アカデミック・モジュール) 5.5以上のいずれかを取得している者は、英語の試験を免除（満点）する。ただし、対象となるスコアは入学試験実施年度の4月1日から遡って5年前の日以後に受験したものに限り。

* 英文学専攻…注1) 語学辞書持ち込み不可。

注2) 外部英語試験において、以下のスコア・資格を有している場合は100点を超えない範囲で20点、あるいは25点を加点する。

＜20点を加点するスコア・資格＞

実用英語技能検定準1級、Cambridge英語検定FCE、IELTS-5.0、TOEFL iBT-70、TOEIC L&R+TOEIC S&W1500点以上1800点未満
(S&Wスコアを2.5倍にして合算したスコア)

＜25点を加点するスコア・資格＞

実用英語技能検定1級、Cambridge英語検定CAE以上、IELTS-6.5、TOEFL iBT-90、TOEIC L&R+TOEIC S&W1800点以上 (S&Wスコアを2.5倍にして合算したスコア)

4 試験時間

〔心理学専攻〕

- (1) 専門科目 9:30～11:00
- (2) 英語 11:20～12:30
- (3) 口述 13:30～

〔社会学専攻・教育学専攻〕

- (1) 英語 9:30～10:40
- (2) 専門科目 11:00～12:30
- (3) 口述 13:30～

〔英文学専攻〕

- (1) 専門科目 11:00～12:30
- (2) 口述 13:30～

5 配点

〔心理学専攻・社会学専攻・教育学専攻〕

英語 100点、専門科目 100点、口述 100点 合計300点

〔英文学専攻〕

専門科目 100点、口述 100点 合計200点

6 選抜方法

学力試験、口述試験の結果および出願書類にもとづき、総合的に判定する。

Ⅱ. 外国人留学生入学試験

1 出願資格

外国人留学生で次のいずれかに該当する者

- (1) 外国において学校教育における16年の課程を修了した者（見込みを含む）
- (2) 大学に3年以上在学した者であって、本研究科が定める所定の単位を優秀な成績で修得したと認めたもの（見込みを含む）
- (3) 本研究科において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で2026年3月31日までに22歳に達したもの

注1）出願に先立ち入学センターに問い合わせたうえで、第1次募集は2025年7月25日（金）まで、第2次募集は2026年1月9日（金）までに教員と直接面談をすること。

なお、心理学専攻臨床心理学領域に出願する場合、臨床心理学領域の教員と直接面談をすること。

注2）出願資格(2)は第2次募集に限り行い第1次募集は行わない。

注3）出願資格(2)、(3)にもとづき出願する者は、出願に先立ち第1次募集においては2025年6月17日（火）、第2次募集においては2025年11月21日（金）までに入学センターに問い合わせたうえで、入学資格認定申請書（所定の用紙）を提出すること。ただし、出願資格(2)は第2次募集に限り行う。

注4）上記の出願資格のうち「見込み」による志願者については、入学試験合格後、2026年3月31日までに入学資格を満たすことができないことが確定した場合、入学を取り消すこととする。

2 出願書類

- (1) 入学志願票（本学所定の用紙）
- (2) 成績証明書（原本に限る）
- (3) 卒業または卒業見込証明書（原本に限る）
- (4) 履歴書（本学所定の用紙）
- (5) 研究計画書（心理学専攻の志願者は、志望理由、卒業論文（卒業研究）等の研究概要、研究テーマおよび計画、本課程修了後の希望進路について本学所定の用紙に日本語で2,000字程度または英語で1,200語程度で記入。社会学専攻・教育学専攻・英文学専攻の志願者は、研究テーマ、志望理由および本課程修了後の希望進路について本学所定の用紙に日本語で1,200字程度または英語で800語程度で記入。文書作成ソフト可）
- (6) 留学にかかる収入予定書（本学所定の用紙）
- (7) 「心理学検定特1級・1級」合格証のコピー（該当者のみ）
- (8) 日本学生支援機構が実施した日本留学試験（日本語）の成績通知書（成績確認書）のコピーまたは大学で日本語を専攻したことを証明する書類。ただし日本の大学において学位を取得した者は除く。
- (9) 検定料 30,000円（郵便為替（普通為替）とし、普通為替証書には何も記入しないこと。）

- * 出願書類（本学所定の用紙）は、日本語または英語によって記入すること。また、出願書類(2)、(3)は原則として和文または英文のものとし、それ以外の場合は、日本語または英語によって訳文を添付すること。
- * 外国人留学生諸納付金減免制度については、16・17ページを参照すること。

3 試験科目

	心理学専攻 (心理科学領域) (臨床心理学領域)	社会学専攻	教育学専攻	英文学専攻
外国語・英語	英語（両領域共通）	英語または日本語	英 語	—
専 門 科 目	心理学 (共通問題・領域別問題)	社会学	教育学	英語学・英文学・ 米文学・応用言語学
口 述	口 述			

- * 心理学専攻…日本心理学諸学会連合「心理学検定特1級・1級」の合格者は、心理科学領域においては、「心理学」を免除（満点）し、臨床心理学領域においては、100点を超えない範囲で30点を加点する
英語の試験については語学辞書（電子式は除く）持ち込み可
- * 社会学専攻…外国語の試験については語学辞書（電子式は除く）持ち込み可
- * 教育学専攻…英語の試験については語学辞書（電子式は除く）持ち込み可
- * 英文学専攻…語学辞書持ち込み不可

4 試験時間

〔心理学専攻〕

- (1) 専門科目 9：30～11：00
- (2) 英 語 11：20～12：30
- (3) 口 述 13：30～

〔英文学専攻〕

- (1) 専門科目 11：00～12：30
- (2) 口 述 13：30～

〔社会学専攻・教育学専攻〕

- (1) 外国語・英語 9：30～10：40
- (2) 専 門 科 目 11：00～12：30
- (3) 口 述 13：30～

5 配 点

〔心理学専攻・社会学専攻・教育学専攻〕

外国語・英語 100点、専門科目 100点、口述 100点 合計300点

〔英文学専攻〕

専門科目 100点、口述 100点 合計200点

6 選抜方法

学力試験、口述試験の結果および出願書類にもとづき総合的に判定する。

Ⅲ. 社会人入学試験（長期履修学生制度適用）

1 出願資格

〔心理学専攻・社会学専攻・教育学専攻・英文学専攻〕

次のいずれかに該当する者

- (A) 次のいずれかに該当し、出願時に4年制の大学またはそれに準ずる機関を卒業後3年以上経た社会人
 - (1) 大学を卒業した者
 - (2) 学校教育法第104条第7項の規定により学士の学位を授与された者
 - (3) 外国において学校教育における16年の課程を修了した者
 - (4) 文部科学大臣の指定した者
- (B) 出願時に短期大学、高等専門学校、専修学校、各種学校その他の教育施設を卒業後5年以上経た社会人のうち、本研究科において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めたもの
- (C) 出願時に高等学校、その他の教育施設を卒業後10年以上経た社会人で、その後、4年制の大学を卒業した者、または、短期大学、高等専門学校、専修学校、各種学校その他の教育施設を卒業した社会人のうち、本研究科において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めたもの

注1) 出願に先立ち入学センターに問い合わせたうえで、第1次募集は2025年7月25日（金）まで、第2次募集は2026年1月9日（金）までに教員と直接面談をすること。
なお、心理学専攻臨床心理学領域に出願する場合、臨床心理学領域の教員と直接面談をすること。

注2) 出願資格(B)(C)にもとづき出願する者は、出願に先立ち、第1次募集の場合2025年6月17日（火）、第2次募集の場合2025年11月21日（金）までに入学センターに問い合わせたうえで、入学資格認定申請書（所定の用紙）を提出すること。

2 出願書類

〔心理学専攻・社会学専攻・教育学専攻・英文学専攻〕

- (1) 入学志願票（本学所定の用紙）
- (2) 成績証明書（原本に限る）
- (3) 卒業証明書（原本に限る）
- (4) 研究計画書（心理学専攻の志願者は、志望理由、研究テーマおよび計画について、本学所定の用紙に2,000字程度で具体的に記述したもの（文書作成ソフト可）を提出すること。
社会学専攻・教育学専攻・英文学専攻の志願者は、研究テーマおよび計画について、本学所定の用紙に2,000字程度で具体的に記述したもの（文書作成ソフト可）を提出すること。）
- (5) 外部英語試験 証明書のコピー（該当者のみ）
- (6) 検定料 30,000円（郵便為替（普通為替）とし、普通為替証書には何も記入しないこと。）
*長期履修学生制度の適用を申請する者は、長期履修学生願（本学所定の用紙）を提出すること。

3 試験科目

〔心理学専攻〕

- (1) 小論文（領域別問題。ただし、心理学の知識を問う問題を含む。）
- (2) 口 述（提出された研究計画書にもとづいて行う。）

〔社会学専攻・教育学専攻〕

- (1) 小論文
- (2) 口 述（提出された研究計画書にもとづいて行う。）

〔英文学専攻〕

- (1) 英 語
- (2) 口 述

＊ただし、出願時において教育・研究職に在職している出願者については、研究業績等を事前に審査して英語試験を免除することがあるので、第1次募集の場合2025年7月25日（金）、第2次募集の場合2026年1月9日（金）までに入学センターに問い合わせること。

＊外部英語試験において、以下のスコア・資格を有している場合は100点を超えない範囲で20点、あるいは25点を加点する。

＜20点を加点するスコア・資格＞

実用英語技能検定準1級、Cambridge英語検定FCE、IELTS-5.0、TOEFL iBT-70、TOEIC L&R+TOEIC S&W1500点以上1800点未満（S&Wスコアを2.5倍にして合算したスコア）

＜25点を加点するスコア・資格＞

実用英語技能検定1級、Cambridge英語検定CAE以上、IELTS-6.5、TOEFL iBT-90、TOEIC L&R+TOEIC S&W1800点以上（S&Wスコアを2.5倍にして合算したスコア）

4 試験時間

	心理学専攻 (心理学領域) (臨床心理学領域)	社会学専攻	教育学専攻	英文学専攻
小論文／英語	9：30～11：00	11：00～12：30		
口 述	13：30～	13：30～		

5 配 点

〔心理学専攻・社会学専攻・教育学専攻〕

小論文 100点、口 述 100点 合計200点

〔英文学専攻〕

英 語 100点、口 述 100点 合計200点

6 選抜方法

〔心理学専攻・社会学専攻・教育学専攻〕

小論文、口述試験の結果および出願書類にもとづき、総合的に判定する。

〔英文学専攻〕

学力試験、口述試験の結果および出願書類にもとづき、総合的に判定する。

◆ 長期履修学生制度について

1. 長期履修学生制度とは？

長期履修学生制度とは、職業を有している等の理由で経済的負担を軽減して3年または4年で計画的に修学し当該課程を修了することのできる制度で、社会人入学試験、シニア特別入学試験の入学者が適用対象となります。

問合せ先 広島修道大学教学センター 教務第2課（人文科学研究科） 082-830-1122

2. 修業年限

大学院における長期履修学生の修業年限は3年または4年で、申請時にどちらかを希望することになります。申請が認められたら2年で修了することはできませんのでご注意ください。なお、修業年限は6年とし、これを越えることはできません。

3. 授業料

長期履修学生は1単位につき33,000円（心理学専攻心理科学領域は42,000円、心理学専攻臨床心理学領域は45,000円）の履修料を納付することになります。修業年限が3年または4年でも、授業料は標準修業年限の2年分とほぼ同額となります。

4. 長期履修学生を希望する場合

長期履修学生を希望する場合、社会人入学試験、シニア特別入学試験を出願される際に、出願書類に添えて「長期履修学生願」（本学所定の用紙）に記入・押印のうえ提出してください。

5. 長期履修学生の決定

長期履修学生として入学を許可された方には、合格通知書とともに「長期履修学生許可書」を速達で郵送します。

Ⅳ－１．学部生推薦入学試験

〔社会学専攻〕

1 出願資格

国内の大学に在学する卒業見込みの者で、出願時に卒業所要単位の4分の3以上の単位を修得し、かつ修得した単位の50%以上がA（優）評価以上である者

注1）出願に先立ち入学センターに問い合わせたうえで、第1次募集は2025年7月25日（金）まで、第2次募集は2026年1月9日（金）までに教員と直接面談をすること。

注2）出願資格について疑義がある場合は、出願に先立ち、第1次募集の場合2025年7月25日（金）、第2次募集の場合2026年1月9日（金）までに入学センターに問い合わせること。

注3）入学試験合格後、2026年3月31日までに入学資格を満たすことができないことが確定した場合、入学を取り消すこととする。

2 出願書類

- (1) 入学志願票（本学所定の用紙）
- (2) 成績証明書（原本に限る）
- (3) 卒業見込証明書
- (4) 推薦書（所属大学の指導教員が作成したもの。本学所定の用紙）
- (5) 研究計画書（研究の目標および計画を、本学所定の用紙に2,000字程度で具体的に記述したもの（文書作成ソフト可））
- (6) 検定料 30,000円（郵便為替（普通為替）とし、普通為替証書には何も記入しないこと。）

3 試験科目

口 述（研究計画書にもとづき行う）

4 試験時間

13：30～

5 配 点

口 述 100点

6 選抜方法

口述試験の結果および出願書類にもとづき、総合的に判定する。

Ⅳ－２．学部生推薦入学試験

〔心理学専攻・教育学専攻・英文学専攻〕

1 出願資格

〔心理学専攻心理科学領域・教育学専攻・英文学専攻〕

本学に在学する卒業見込みの者で、出願時に卒業所要単位の4分の3以上の単位を修得し、かつ修得した単位の50%以上がA（優）評価以上である者

〔心理学専攻臨床心理学領域〕（第1次募集のみ実施）

本学に在学する卒業見込みの者で、出願時に110単位以上の単位を修得し、かつ3年次終了時の累積GPAが3.0以上である者

- 注1）出願に先立ち入学センターに問い合わせたうえで、第1次募集は2025年7月25日（金）まで、第2次募集は2026年1月9日（金）までに教員と直接面談をすること。
なお、心理学専攻臨床心理学領域に出願する場合、指導教員の下承を得たうえで、臨床心理学領域の教員と直接面談をすること。
- 注2）出願資格について疑義がある場合は、出願に先立ち、第1次募集の場合2025年7月25日（金）、第2次募集の場合2026年1月9日（金）までに入学センターに問い合わせること。
- 注3）入学試験合格後、2026年3月31日までに入学資格を満たすことができないことが確定した場合、入学を取り消すこととする。

2 出願書類

- (1) 入学志願票（本学所定の用紙）
- (2) 成績証明書（原本に限る）
- (3) 卒業見込証明書
- (4) 推薦書（指導教員が作成したもの。本学所定用紙）
- (5) 研究計画書（心理学専攻の志願者は、志望理由、研究の目標および計画を、本学所定の用紙に2,000字程度で具体的に記述したもの（文書作成ソフト可）を提出すること。なお、第1次募集では、卒業論文あるいは卒業研究の「題目届（研究計画）のコピー」、第2次募集では、口頭試問用に提出した「レジュメ」を添付すること。
教育学専攻・英文学専攻の志願者は、研究の目標および計画を、本学所定の用紙に2,000字程度で具体的に記述したもの（文書作成ソフト可）を提出すること。）
- (6) 検定料 30,000円（郵便為替（普通為替）とし、普通為替証書には何も記入しないこと。）

3 試験科目

口 述（研究計画書にもとづき行う）

4 試験時間

〔心理学専攻心理科学領域〕

口 述 13：30～

〔心理学専攻臨床心理学領域〕

口 述 10：00～

〔教育学専攻・英文学専攻〕

口 述 13：30～

5 配 点

口 述 100点

6 選抜方法

口述試験の結果および出願書類にもとづき、総合的に判定する。

V. シニア特別入学試験（長期履修学生制度適用）

〔社会学専攻〕

1 出願資格

次のいずれかに該当し、入学時に50歳以上の定年（早期含む）退職をした者

- (1) 大学を卒業した者（見込みを含む）
- (2) 学校教育法第104条第7項の規定により学士の学位を授与された者（見込みを含む）
- (3) 外国において学校教育における16年の課程を修了した者（見込みを含む）
- (4) 文部科学大臣の指定した者
- (5) 本研究科において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めたもの

注1）出願に先立ち入学センターに問い合わせたうえで、第1次募集は2025年7月25日（金）まで、第2次募集は2026年1月9日（金）までに教員と直接面談をすること。

注2）出願資格(5)にもとづき出願する者は、出願に先立ち、第1次募集の場合2025年6月17日（火）、第2次募集の場合2025年11月21日（金）までに入学センターに問い合わせたうえで、入学資格認定申請書（所定の用紙）を提出すること。

2 出願書類

- (1) 入学志願票（本学所定の用紙）
- (2) 成績証明書（原本に限る）
- (3) 卒業または卒業見込証明書（原本に限る）
- (4) 履歴書（学歴および職歴を記載したもの。本学所定の用紙）
- (5) 研究計画書（研究テーマおよび計画について、本学所定の用紙に2,000字程度で具体的に記述したもの（文書作成ソフト可））
- (6) 検定料 30,000円（郵便為替（普通為替）とし、普通為替証書には何も記入しないこと。）
＊長期履修学生制度の適用を申請する者は、長期履修学生願（本学所定の用紙）を提出すること。

3 試験科目

- (1) 口述（提出された研究計画書にもとづいて行う。）

＊ただし、出願時において教育・研究職に在職している出願者については、研究業績等を事前に審査してこの試験を免除することがあるので、第1次募集の場合2025年7月25日（金）、第2次募集の場合2026年1月9日（金）までに入学センターに問い合わせること。

4 試験時間割

口述 13：30～

5 配点

口述 100点

6 選抜方法

口述試験の結果および出願書類にもとづき、総合的に判定する。

◆長期履修学生制度については25ページを参照してください。

募 集 要 項

博士後期課程

人文科学研究科心理学専攻、英文学専攻博士後期課程の学生を次のとおり募集する。

1 試験の種類および募集人員

募 集 人 員	心理学専攻	英文学専攻
	2 名	2 名
一 般 入 学 試 験	若干名	若干名
外国人留学生入学試験	若干名	若干名

2 出願資格

〔一般入学試験〕

次のいずれかに該当する者

- (1) 修士の学位又は専門職学位を有する者（見込みを含む）
- (2) 外国において、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者（見込みを含む）
- (3) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者（見込みを含む）
- (4) 我が国において、外国の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者（見込みを含む）
- (5) 文部科学大臣の指定した者
- (6) 本研究科において、個別の入学資格審査により、修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者で、2026年3月31日までに24歳に達したもの

注1）出願に先立ち入学センターに問い合わせたうえで、2026年1月9日（金）までに教員と直接面談をすること。

注2）出願資格(6)にもとづき出願する者は、出願に先立ち、2025年11月21日（金）までに入学センターに問い合わせたうえで入学資格認定申請書（所定の用紙）を提出すること。

注3）上記の出願資格のうち「見込み」による志願者については、入学試験合格後、2026年3月31日までに入学資格を満たすことができないことが確定した場合、入学を取り消すこととする。

〔外国人留学生入学試験〕

外国人留学生で次のいずれかに該当する者

- (1) 修士の学位又は専門職学位を有する者（見込みを含む）
- (2) 外国において修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者（見込みを含む）

注1）出願に先立ち入学センターに問い合わせたうえで、2026年1月9日（金）までに教員と直接面談をすること。

注2）上記の出願資格のうち「見込み」による志願者については、入学試験合格後、2026年3月31日までに入学資格を満たすことができないことが確定した場合、入学を取り消すこととする。

3 出願期間

2026年1月26日（月）～2026年2月4日（水）（締切日当日必着）

4 出願書類

- (1) 入学志願票（本学所定の用紙）
- (2) 成績証明書（原本に限る）
- (3) 学位取得（見込）証明書（原本に限る）
- (4) 修士論文およびその概要書（A4判の用紙に1,200字程度で記入すること。書式は任意とし、文書作成ソフトも可。）
- (5) 研究計画書（研究テーマ、志望理由および本課程修了後の希望進路について本学所定の用紙に1,200字程度で記入すること。文書作成ソフトも可。）
- (6) 検定料 30,000円（郵便為替（普通為替）とし、普通為替証書には何も記入しないこと。）
 - *外国人留学生入学試験については、上記の他に「履歴書」（本学所定の用紙）、「留学にかかる収入予定書」（本学所定の用紙）を必要とする。
 - *外国人留学生の研究計画書については、研究テーマ、志望理由および本課程修了後の希望進路について本学所定の用紙に日本語で1,200字程度または英語で800語程度で記入すること。
 - *外国人留学生諸納付金減免制度については、33ページを参照すること。
 - *出願書類（本学所定の用紙）は日本語または英語によって記入すること。また出願書類(2)、(3)は原則として和文または英文のものとし、それ以外の場合は、日本語または英語によって訳文を添付すること。
 - *学位取得（見込）証明書の取得が困難な場合は、修了（見込）証明書をもってこれに代えることができる。また、修士論文およびその概要書の提出が困難な場合は、著書、論文、報告書等自己の能力を証する資料をもってこれに代えることができる。

5 試験日

2026年2月14日（土）

6 試験科目

〔心理学専攻〕

- (1) 英語（語学辞書持ち込み不可）
- (2) 心理学
- (3) 口述

〔英文学専攻〕

- (1) 英語（語学辞書持ち込み不可）
 - *ただし、出願時において教育・研究職に在職している出願者については、研究業績等を事前に審査してこの試験を免除することがあるので、2026年1月9日（金）までに入学センターに問い合わせること。
- (2) 口述

7 試験時間割

〔心理学専攻〕

- (1) 心理学 9:30～11:00
- (2) 英語 11:20～12:30
- (3) 口述 13:30～

〔英文学専攻〕

(1) 英 語 11:00～12:30

(2) 口 述 13:30～

8 配 点

心理学専攻：心理学 100点、英語 100点、口述 100点 合計300点

英文学専攻：英語 100点、口述 100点 合計200点

9 選抜方法

〔心理学専攻〕〔英文学専攻〕

学力試験、口述試験の結果および出願書類にもとづき総合的に判定する。

10 試験場

本 学

11 合格者発表

2026年2月21日（土）

12 入学手続

（一括手続） 2026年2月24日（火）～2026年3月3日（火）（期間厳守）

＊期間内に入学手続きを完了しない場合は、いかなる理由があろうとも入学を許可しません。

＊入学手続き（前期分諸納付金納入）を行った後に、入学を辞退する者については、入学金を除く前期分諸納付金を返還します。返還を希望する者は、「入学辞退届」を2026年3月31日（火）（**必着**）までに、入学センターに提出してください。

13 出願先

〒731-3195 広島市安佐南区大塚東1-1-1

広島修道大学 入学センター（TEL 082-830-1100）

〈注意〉願書は、速達簡易書留で郵送してください。

14 諸納付金

	心理学専攻	英文学専攻
入 学 金	220,000円	220,000円
在 学 料	630,000円	490,000円
初 年 度 合 計	850,000円	710,000円

＊広島修道大学大学院博士前期課程から入学する者の入学金は免除とする。

＊入学金は入学年度のみ納入する。

15 奨学金制度

本学で取り扱っている奨学金は下表のとおりです。

種 別		貸 与 月 額
日本学生 支援機構	第一種奨学金(※)	(無利子) 80,000円または122,000円のいずれか希望する額
	第二種奨学金	(有利子) 5万円・8万円・10万円・13万円・15万円のうち希望により選択

※日本学生支援機構では、大学院において第一種奨学金の貸与を受けた学生であって、在学中に特に優れた業績を挙げた者として日本学生支援機構が認定した場合には、貸与期間終了時に第一種奨学金の全部または一部の返還が免除される「特に優れた業績による返還免除」という制度があります。詳細は、学生センター（082-830-1117）へ問い合わせてください。

16 外国人留学生諸納付金減免制度

広島修道大学では、外国人留学生を経済的に支援するための諸納付金減免制度を設けています。諸納付金減免を希望する人は、必要書類を出願書類とあわせて提出してください。

1. 申請資格

出入国管理および難民認定法別表第1に定める「留学」の在留資格を保有、または取得見込みの外国人留学生であって、経済的に修学が困難と認められるものであり、次の(1)から(3)をすべて満たす者

「留学」の在留資格を取得見込みの場合は、事前に国際センターへ問い合わせてください。

- (1) 母国から入学金・授業料等以外の仕送りがある場合、その平均月額が90,000円以下であること
- (2) 日本に居住する扶養者がある場合、その年収が500万円未満であること
- (3) 入学試験の成績が優秀であること

2. 提出書類

次の(1)および(2)すべての書類を出願書類とあわせて提出すること

- (1) 諸納付金減免申請書（本学所定用紙）
- (2) 在留資格を示す書類の写し（在留カード、もしくはパスポートの該当ページ）

※在留カードは両面コピーすること

3. 選考方法

入学試験成績および申請書一式により選考する。

4. 減免範囲および採用人数

減免範囲	採用人数
在学料の全額	入学試験の得点率上位21位以内の者
在学料の半額	入学試験の得点率上位22位から26位までの者

※大学院博士後期課程を優先し、残余数を大学院修士課程または博士前期課程に充てる

5. 減免対象期間

入学時から1年間（2年次以降は再度申請が必要）

6. 決定通知

諸納付金減免の採否決定通知は、合格発表日に速達で郵送します。

諸納付金減免に関する問い合わせ先
国際センター（082-830-1103）

17 その他

- (1) 障がいのある志願者で、受験上の配慮について要望がある場合、および入学後の就学について特別の配慮を必要とする場合は、出願に先立ち、2026年1月9日（金）までに入学センターに問い合わせること。
- (2) **願書は、速達簡易書留で郵送してください。**
- (3) 志願票および出願書類の記載事項は、入学試験に係る事務処理に使用し、それ以外の目的に使用することはありません。
- (4) 教育ローン
公的な融資機関として日本政策金融公庫があります。相談については教育ローンコールセンター（TEL 0570-008656）へ問い合わせてください。

(参考)

2025年度人文科学研究科授業科目及び単位数

2025年度の授業科目は、下表のとおりです。

開設する授業科目・授業内容については、入学後に学修の手引きを配布しますが、大学院の授業内容は、担当教員の研究分野及び研究テーマと深く関わっているもので、参考として44頁以降の「授業科目担当専任教員の研究分野及び研究テーマ」を参照してください。

1. 博士前期課程及び修士課程

(1) 心理学専攻

授 業 科 目						単 位
精	神	生	理	学	I	2
精	神	生	理	学	II	2
精	神	生	理	学	I	2
精	神	生	理	学	II	2
精	神	生	理	学	I	1
精	神	生	理	学	II	1
精	神	生	理	学	III	1
精	神	生	理	学	IV	1
精	神	生	理	学	I	2
精	神	生	理	学	II	2
知	覚	心	理	学	I	2
知	覚	心	理	学	II	2
知	覚	心	理	学	I	2
知	覚	心	理	学	II	2
知	覚	心	理	学	I	1
知	覚	心	理	学	II	1
知	覚	心	理	学	III	1
知	覚	心	理	学	IV	1
知	覚	心	理	学	I	2
知	覚	心	理	学	II	2
学	習	心	理	学	I	2
学	習	心	理	学	II	2
学	習	心	理	学	I	2
学	習	心	理	学	II	2
学	習	心	理	学	I	1
学	習	心	理	学	II	1
学	習	心	理	学	III	1
学	習	心	理	学	IV	1
学	習	心	理	学	I	2
学	習	心	理	学	II	2
人	格	心	理	学	I	2
人	格	心	理	学	II	2
人	格	心	理	学	I	2
人	格	心	理	学	II	2
人	格	心	理	学	I	1

業 科 目										単 位
人	格	心	理	学	実	験	研	究	Ⅱ	1
人	格	心	理	学	実	験	研	究	Ⅲ	1
人	格	心	理	学	実	験	研	究	Ⅳ	1
人	格	心	理	学	実	験	研	導	Ⅰ	2
人	格	心	理	学	実	験	指	導	Ⅱ	2
臨	床	心	理	学	学	特	論		Ⅰ	2
臨	床	心	理	学	研	究	指	導	Ⅱ	2
臨	床	心	理	学	研	究	指	導	Ⅰ	2
臨	床	心	理	学	研	究	指	導	Ⅱ	2
認		知	心	理	理		学		Ⅰ	2
認		知	心	理	学	演	学		Ⅱ	2
認		知	心	理	学	演	習		Ⅰ	2
認		知	心	理	学	演	習		Ⅱ	2
認		知	心	理	実	験	研	究	Ⅰ	1
認		知	心	理	実	験	研	究	Ⅱ	1
認		知	心	理	実	験	研	導	Ⅲ	1
認		知	心	理	実	験	研	導	Ⅳ	1
認		知	心	理	実	験	指	導	Ⅰ	2
認		知	心	理	実	験	指	導	Ⅱ	2
社		会	心	理	理		学		Ⅰ	2
社		会	心	理	学	演	学		Ⅱ	2
社		会	心	理	学	演	習		Ⅰ	2
社		会	心	理	学	演	習		Ⅱ	2
社		会	心	理	実	験	研	究	Ⅰ	1
社		会	心	理	実	験	研	究	Ⅱ	1
社		会	心	理	実	験	研	導	Ⅲ	1
社		会	心	理	実	験	研	導	Ⅳ	1
社		会	心	理	実	験	指	導	Ⅰ	2
社		会	心	理	実	験	指	導	Ⅱ	2
発		達	心	理	理		学		Ⅰ	2
発		達	心	理	学	演	学		Ⅱ	2
発		達	心	理	学	演	習		Ⅰ	2
発		達	心	理	学	演	習		Ⅱ	2
発		達	心	理	実	験	研	究	Ⅰ	1
発		達	心	理	実	験	研	究	Ⅱ	1
発		達	心	理	実	験	研	導	Ⅲ	1
発		達	心	理	実	験	研	導	Ⅳ	1
発		達	心	理	実	験	指	導	Ⅰ	2
発		達	心	理	実	験	指	導	Ⅱ	2
教		育	心	理	理		学		Ⅰ	2
教		育	心	理	学	演	学		Ⅱ	2
教		育	心	理	学	演	習		Ⅰ	2
教		育	心	理	学	演	習		Ⅱ	2
教		育	心	理	実	験	研	究	Ⅰ	1
教		育	心	理	実	験	研	究	Ⅱ	1
教		育	心	理	実	験	研	導	Ⅲ	1
教		育	心	理	実	験	研	導	Ⅳ	1
教		育	心	理	実	験	指	導	Ⅰ	2
教		育	心	理	実	験	指	導	Ⅱ	2

＊ ＊

授 業 科 目	単 位	
応 用 心 理 学 I	2	
応 用 心 理 学 II	2	
応 用 心 理 学 演 習 I	2	
応 用 心 理 学 演 習 II	2	
応 用 心 理 学 実 験 研 究 I	1	
応 用 心 理 学 実 験 研 究 II	1	
応 用 心 理 学 実 験 研 究 III	1	
応 用 心 理 学 実 験 研 究 IV	1	
応 用 心 理 学 研 究 指 導 I	2	
応 用 心 理 学 研 究 指 導 II	2	
心 理 学 研 究 特 講 I	2	
心 理 学 研 究 特 講 II	2	
心 理 学 特 殊 演 習	2	
臨床心理面接特論 I (心理支援に関する理論と実践)	2	*
臨床心理面接特論 II	2	*
臨床心理査定演習 I (心理的アセスメントに関する理論と実践)	2	*
臨床心理査定演習 II	2	*
臨床心理基礎実習 I	1	*
臨床心理基礎実習 II	1	*
臨床心理実習 II	1	*
臨床心理事例研究実習 I (心理実践実習 I A)	2	*
臨床心理事例研究実習 II (心理実践実習 II A)	2	*
心理実践実習 I B	2	*
臨床心理実習 I (心理実践実習 II B)	2	*
心理実践実習 II C	2	*
臨床心理学実験研究 I	1	
臨床心理学実験研究 II	1	
心理学研究方法特論	2	
心理統計法特論	2	
家族心理学特論 (家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践)	2	*
犯罪心理学特論 (司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開)	2	*
心身医学特論 (保健医療分野に関する理論と支援の展開)	2	*
精神医学特論	2	*
障がい者(児)心理学特論 (福祉分野に関する理論と支援の展開)	2	*
投影法特論	2	*
臨床心理地域援助特論	2	*
教育心理学特論 (教育分野に関する理論と支援の展開)	2	*
心の健康教育に関する理論と実践	2	*
産業・労働分野に関する理論と支援の展開	2	*

心理科学領域で入学した学生は、臨床心理学領域の*が付いている科目は履修できません。

(2) 社会学専攻

授 業 科 目										単 位				
国 国 国 国 国 国	際 際 際 際	社 社 社	社 会 会 学 学	会 学 学 調 調	学 演 演 査 査	学 習 習 習 習	I II I II I II	2 2 2 2 4 4	導	2 2 2 2 4 4				
	コ コ コ コ コ コ	ミ ミ ミ ミ ミ	ユ ユ ユ ユ ユ	ニ ニ ニ ニ ニ	ケ ケ ケ ケ ケ	ー ー ー ー ー	シ シ シ シ シ	ョ ョ ョ ョ ョ			ン ン ン ン ン	論 論 論 論 論	I II I II I II	2 2 2 2 4 4
カ カ カ カ カ カ	ル ル ル ル ル	チ チ チ チ チ	ユ ユ ユ ユ ユ	ラ ラ ラ ラ ラ	ル ・ ・ ・ ・	ス ス ス ス ス	タ タ タ タ タ	デ デ デ デ デ	ィ ィ ィ ィ ィ	ー ー ー ー ー	ズ ズ ズ ズ ズ	I II I II I II	2 2 2 2 4 4	
現 現 現 現 現 現	代 代 代 代	社 社 社	社 会 会 論 論	会 論 論 調 調	論 演 演 査 査	演 習 習 習 習	I II I II I II	2 2 2 2 4 4	導	2 2 2 2 4 4				
	ク ク ク ク ク ク	イ イ イ イ イ	ア ア ア ア ア	・ ・ ・ ・ ・	ス ス ス ス ス	タ タ タ タ タ	デ デ デ デ デ	ィ ィ ィ ィ ィ			ー ー ー ー ー	ズ ズ ズ ズ ズ	I II I II I II	2 2 2 2 4 4
社 社 社 社 社 社	会 会 会 会	意 意 意	意 識 識 論 論	識 論 論 調 調	識 論 演 査 査	論 習 習 習 習	I II I II I II	2 2 2 2 4 4	導	2 2 2 2 4 4				
	コ コ コ コ コ コ	ミ ミ ミ ミ ミ	ユ ユ ユ ユ ユ	ニ ニ ニ ニ ニ	ケ ケ ケ ケ ケ	ー ー ー ー ー	シ シ シ シ シ	ョ ョ ョ ョ ョ			ン ン ン ン ン	論 論 論 論 論	I II I II I II	2 2 2 2 4 4
カ カ カ カ カ カ	ル ル ル ル ル	チ チ チ チ チ	ユ ユ ユ ユ ユ	ラ ラ ラ ラ ラ	ル ・ ・ ・ ・	ス ス ス ス ス	タ タ タ タ タ	デ デ デ デ デ	ィ ィ ィ ィ ィ	ー ー ー ー ー	ズ ズ ズ ズ ズ	I II I II I II	2 2 2 2 4 4	
現 現 現 現 現 現	代 代 代 代	社 社 社	社 会 会 論 論	会 論 論 調 調	論 演 演 査 査	演 習 習 習 習	I II I II I II	2 2 2 2 4 4	導	2 2 2 2 4 4				
コ コ コ コ コ コ	ミ ミ ミ ミ ミ	ユ ユ ユ ユ ユ	ニ ニ ニ ニ ニ	ケ ケ ケ ケ ケ	ー ー ー ー ー	シ シ シ シ シ	ョ ョ ョ ョ ョ	ン ン ン ン ン			論 論 論 論 論	I II I II I II	2 2 2 2 4 4	
カ カ カ カ カ カ	ル ル ル ル ル	チ チ チ チ チ	ユ ユ ユ ユ ユ	ラ ラ ラ ラ ラ	ル ・ ・ ・ ・	ス ス ス ス ス	タ タ タ タ タ	デ デ デ デ デ	ィ ィ ィ ィ ィ	ー ー ー ー ー	ズ ズ ズ ズ ズ	I II I II I II	2 2 2 2 4 4	
現 現 現 現 現 現	代 代 代 代	社 社 社	社 会 会 論 論	会 論 論 調 調	論 演 演 査 査	演 習 習 習 習	I II I II I II	2 2 2 2 4 4	導	2 2 2 2 4 4				
コ コ コ コ コ コ	ミ ミ ミ ミ ミ	ユ ユ ユ ユ ユ	ニ ニ ニ ニ ニ	ケ ケ ケ ケ ケ	ー ー ー ー ー	シ シ シ シ シ	ョ ョ ョ ョ ョ	ン ン ン ン ン			論 論 論 論 論	I II I II I II	2 2 2 2 4 4	
カ カ カ カ カ カ	ル ル ル ル ル	チ チ チ チ チ	ユ ユ ユ ユ ユ	ラ ラ ラ ラ ラ	ル ・ ・ ・ ・	ス ス ス ス ス	タ タ タ タ タ	デ デ デ デ デ	ィ ィ ィ ィ ィ	ー ー ー ー ー	ズ ズ ズ ズ ズ	I II I II I II	2 2 2 2 4 4	
現 現 現 現 現 現	代 代 代 代	社 社 社	社 会 会 論 論	会 論 論 調 調	論 演 演 査 査	演 習 習 習 習	I II I II I II	2 2 2 2 4 4	導	2 2 2 2 4 4				
コ コ コ コ コ コ	ミ ミ ミ ミ ミ	ユ ユ ユ ユ ユ	ニ ニ ニ ニ ニ	ケ ケ ケ ケ ケ	ー ー ー ー ー	シ シ シ シ シ	ョ ョ ョ ョ ョ	ン ン ン ン ン			論 論 論 論 論	I II I II I II	2 2 2 2 4 4	
カ カ カ カ カ カ	ル ル ル ル ル	チ チ チ チ チ	ユ ユ ユ ユ ユ	ラ ラ ラ ラ ラ	ル ・ ・ ・ ・	ス ス ス ス ス	タ タ タ タ タ	デ デ デ デ デ	ィ ィ ィ ィ ィ	ー ー ー ー ー	ズ ズ ズ ズ ズ	I II I II I II	2 2 2 2 4 4	
現 現 現 現 現 現	代 代 代 代	社 社 社	社 会 会 論 論	会 論 論 調 調	論 演 演 査 査	演 習 習 習 習	I II I II I II	2 2 2 2 4 4	導	2 2 2 2 4 4				
コ コ コ コ コ コ	ミ ミ ミ ミ ミ	ユ ユ ユ ユ ユ	ニ ニ ニ ニ ニ	ケ ケ ケ ケ ケ	ー ー ー ー ー	シ シ シ シ シ	ョ ョ ョ ョ ョ	ン ン ン ン ン			論 論 論 論 論	I II I II I II	2 2 2 2 4 4	
カ カ カ カ カ カ	ル ル ル ル ル	チ チ チ チ チ	ユ ユ ユ ユ ユ	ラ ラ ラ ラ ラ	ル ・ ・ ・ ・	ス ス ス ス ス	タ タ タ タ タ	デ デ デ デ デ	ィ ィ ィ ィ ィ	ー ー ー ー ー	ズ ズ ズ ズ ズ	I II I II I II	2 2 2 2 4 4	
現 現 現 現 現 現	代 代 代 代	社 社 社	社 会 会 論 論	会 論 論 調 調	論 演 演 査 査	演 習 習 習 習	I II I II I II	2 2 2 2 4 4	導	2 2 2 2 4 4				
コ コ コ コ コ コ	ミ ミ ミ ミ ミ	ユ ユ ユ ユ ユ	ニ ニ ニ ニ ニ	ケ ケ ケ ケ ケ	ー ー ー ー ー	シ シ シ シ シ	ョ ョ ョ ョ ョ	ン ン ン ン ン			論 論 論 論 論	I II I II I II	2 2 2 2 4 4	
カ カ カ カ カ カ	ル ル ル ル ル	チ チ チ チ チ	ユ ユ ユ ユ ユ	ラ ラ ラ ラ ラ	ル ・ ・ ・ ・	ス ス ス ス ス	タ タ タ タ タ	デ デ デ デ デ	ィ ィ ィ ィ ィ	ー ー ー ー ー	ズ ズ ズ ズ ズ	I II I II I II	2 2 2 2 4 4	
現 現 現 現 現 現	代 代 代 代	社 社 社	社 会 会 論 論	会 論 論 調 調	論 演 演 査 査	演 習 習 習 習	I II I II I II	2 2 2 2 4 4	導	2 2 2 2 4 4				
コ コ コ コ コ コ	ミ ミ ミ ミ ミ	ユ ユ ユ ユ ユ	ニ ニ ニ ニ ニ	ケ ケ ケ ケ ケ	ー ー ー ー ー	シ シ シ シ シ	ョ ョ ョ ョ ョ	ン ン ン ン ン			論 論 論 論 論	I II I II I II	2 2 2 2 4 4	
カ カ カ カ カ カ	ル ル ル ル ル	チ チ チ チ チ	ユ ユ ユ ユ ユ	ラ ラ ラ ラ ラ	ル ・ ・ ・ ・	ス ス ス ス ス	タ タ タ タ タ	デ デ デ デ デ	ィ ィ ィ ィ ィ	ー ー ー ー ー	ズ ズ ズ ズ ズ	I II I II I II	2 2 2 2 4 4	
現 現 現 現 現 現	代 代 代 代	社 社 社	社 会 会 論 論	会 論 論 調 調	論 演 演 査 査	演 習 習 習 習	I II I II I II	2 2 2 2 4 4	導	2 2 2 2 4 4				
コ コ コ コ コ コ	ミ ミ ミ ミ ミ	ユ ユ ユ ユ ユ	ニ ニ ニ ニ ニ	ケ ケ ケ ケ ケ	ー ー ー ー ー	シ シ シ シ シ	ョ ョ ョ ョ ョ	ン ン ン ン ン			論 論 論 論 論	I II I II I II	2 2 2 2 4 4	
カ カ カ カ カ カ	ル ル ル ル ル	チ チ チ チ チ	ユ ユ ユ ユ ユ	ラ ラ ラ ラ ラ	ル ・ ・ ・ ・	ス ス ス ス ス	タ タ タ タ タ	デ デ デ デ デ	ィ ィ ィ ィ ィ	ー ー ー ー ー	ズ ズ ズ ズ ズ	I II I II I II	2 2 2 2 4 4	
現 現 現 現 現 現	代 代 代 代	社 社 社	社 会 会 論 論	会 論 論 調 調	論 演 演 査 査	演 習 習 習 習	I II I II I II	2 2 2 2 4 4	導	2 2 2 2 4 4				
コ コ コ コ コ コ	ミ ミ ミ ミ ミ	ユ ユ ユ ユ ユ	ニ ニ ニ ニ ニ	ケ ケ ケ ケ ケ	ー ー ー ー ー	シ シ シ シ シ	ョ ョ ョ ョ ョ	ン ン ン ン ン			論 論 論 論 論	I II I II I II	2 2 2 2 4 4	
カ カ カ カ カ カ	ル ル ル ル ル	チ チ チ チ チ	ユ ユ ユ ユ ユ	ラ ラ ラ ラ ラ	ル ・ ・ ・ ・	ス ス ス ス ス	タ タ タ タ タ	デ デ デ デ デ	ィ ィ ィ ィ ィ	ー ー ー ー ー	ズ ズ ズ ズ ズ	I II I II I II	2 2 2 2 4 4	
現 現 現 現 現 現	代 代 代 代	社 社 社	社 会 会 論 論	会 論 論 調 調	論 演 演 査 査	演 習 習 習 習	I II I II I II	2 2 2 2 4 4	導	2 2 2 2 4 4				
コ コ コ コ コ コ	ミ ミ ミ ミ ミ	ユ ユ ユ ユ ユ	ニ ニ ニ ニ ニ	ケ ケ ケ ケ ケ	ー ー ー ー ー	シ シ シ シ シ	ョ ョ ョ ョ ョ	ン ン ン ン ン			論 論 論 論 論	I II I II I II	2 2 2 2 4 4	
カ カ カ カ カ カ	ル ル ル ル ル	チ チ チ チ チ	ユ ユ ユ ユ ユ	ラ ラ ラ ラ ラ	ル ・ ・ ・ ・	ス ス ス ス ス	タ タ タ タ タ	デ デ デ デ デ	ィ ィ ィ ィ ィ	ー ー ー ー ー	ズ ズ ズ ズ ズ	I II I II I II	2 2 2 2 4 4	
現 現 現 現 現 現	代 代 代 代	社 社 社	社 会 会 論 論	会 論 論 調 調	論 演 演 査 査	演 習 習 習 習	I II I II I II	2 2 2 2 4 4	導	2 2 2 2 4 4				
コ コ コ コ コ コ	ミ ミ ミ ミ ミ	ユ ユ ユ ユ ユ	ニ ニ ニ ニ ニ	ケ ケ ケ ケ ケ	ー ー ー ー ー	シ シ シ シ シ	ョ ョ ョ ョ ョ	ン ン ン ン ン			論 論 論 論 論	I II I II I II	2 2 2 2 4 4	
カ カ カ カ カ カ	ル ル ル ル ル	チ チ チ チ チ	ユ ユ ユ ユ ユ	ラ ラ ラ ラ ラ	ル ・ ・ ・ ・	ス ス ス ス ス	タ タ タ タ タ	デ デ デ デ デ	ィ ィ ィ ィ ィ	ー ー ー ー ー	ズ ズ ズ ズ ズ	I II I II I II	2 2 2 2 4 4	
現 現 現 現 現 現	代 代 代 代	社 社 社	社 会 会 論 論	会 論 論 調 調	論 演 演 査 査	演 習 習 習 習	I II I II I II	2 2 2 2 4 4	導	2 2 2 2 4 4				
コ コ コ コ コ コ	ミ ミ ミ ミ ミ	ユ ユ ユ ユ ユ	ニ ニ ニ ニ ニ	ケ ケ ケ ケ ケ	ー ー ー ー ー	シ シ シ シ シ	ョ ョ ョ ョ ョ	ン ン ン ン ン			論 論 論 論 論	I II I II I II	2 2 2 2 4 4	
カ カ カ カ カ カ	ル ル ル ル ル	チ チ チ チ チ	ユ ユ ユ ユ ユ	ラ ラ ラ ラ ラ	ル ・ ・ ・ ・	ス ス ス ス ス	タ タ タ タ タ	デ デ デ デ デ	ィ ィ ィ ィ ィ	ー ー ー ー ー	ズ ズ ズ ズ ズ	I II I II I II	2 2 2 2 4 4	
現 現 現 現 現 現	代 代 代 代	社 社 社	社 会 会 論 論	会 論 論 調 調	論 演 演 査 査	演 習 習 習 習	I II I II I II	2 2 2 2 4 4	導	2 2 2 2 4 4				
コ コ コ コ コ コ	ミ ミ ミ ミ ミ	ユ ユ ユ ユ ユ	ニ ニ ニ ニ ニ	ケ ケ ケ ケ ケ	ー ー ー ー ー	シ シ シ シ シ	ョ ョ ョ ョ ョ	ン ン ン ン ン			論 論 論 論 論	I II I II I II	2 2 2 2 4 4	
カ カ カ カ カ カ	ル ル ル ル ル	チ チ チ チ チ	ユ ユ ユ ユ ユ	ラ ラ ラ ラ ラ	ル ・ ・ ・ ・	ス ス ス ス ス	タ タ タ タ タ	デ デ デ デ デ	ィ ィ ィ ィ ィ	ー ー ー ー ー	ズ ズ ズ ズ ズ	I II I II I II	2 2 2 2 4 4	
現 現 現 現 現 現	代 代 代 代	社 社 社	社 会 会 論 論	会 論 論 調 調	論 演 演 査 査	演 習 習 習 習	I II I II I II	2 2 2 2 4 4	導	2 2 2 2 4 4				
コ コ コ コ コ コ	ミ ミ ミ ミ ミ	ユ ユ ユ ユ ユ	ニ ニ ニ ニ ニ	ケ ケ ケ										

授 業 科 目									単 位
感	情	社	会	学	I	2			
感	情	社	会	学	II	2			
感	情	社	会	学	演 習	I	2		
感	情	社	会	学	演 習	II	2		
感	情	社	会	学	調 査	演 習	I	4	
感	情	社	会	学	調 査	演 習	II	4	
感	情	社	会	学	研 究	指 導		4	
社	会	学	理	論	研 究	法		2	
社	会	学	研	究	法			2	
応	用	社	会	学	特 殊	講 義	I	2	
応	用	社	会	学	特 殊	講 義	II	2	
現	代	社	会	学	特 殊	講 義		2	
社	会	学	特	殊	講	義		2	
社	会	学	特	殊	演 習	義		2	
社	会	学	特	殊	演 習	究		2	
社	会	学	調	査	論	I	2		
社	会	学	調	査	論	II	2		
社	会	調	査	論	演 習	I	2		
社	会	調	査	論	演 習	II	2		
社	会	調	査	論	演 習	I	4		
社	会	調	査	論	演 習	II	4		
社	会	調	査	論	演 習	指 導	4		
社	会	問	題	の	社 会	学	I	2	
社	会	問	題	の	社 会	学	II	2	
社	会	問	題	の	社 会	学	I	2	
社	会	問	題	の	社 会	学	II	2	
社	会	問	題	の	社 会	学	I	4	
社	会	問	題	の	社 会	学	II	4	
社	会	問	題	の	社 会	学	指 導	4	
社	会	調	査	特 論	演 習 (調 査 企 画 ・ 設 計)		2		
社	会	調	査	特 論	演 習 (多 変 量 解 析)		2		
社	会	調	査	特 論	演 習 (質 的 調 査 法)		2		

(3) 教育学専攻

授 業 科 目									単 位
教	育	基	礎	論	I	2			
教	育	基	礎	論	II	2			
教	育	基	礎	論	演 習	I	2		
教	育	基	礎	論	演 習	II	2		
教	育	基	礎	論	研 究	指 導	I	2	
教	育	基	礎	論	研 究	指 導	II	2	

授業科目								單位		
教教教教教教	育育	政政	政政	策策	策策	論論	習習	I	2	
								II	2	
	育育	政政	策策	論論	研研	演演	習習	I	2	
								II	2	
	育育	政政	策策	論論	研研	究究	指指	導導	I	2
									II	2
教教教教教教	育育	社社	社社	會會	會會	學學	習習	I	2	
								II	2	
	育育	社社	會會	學學	學學	演演	習習	I	2	
								II	2	
	育育	社社	會會	學學	研研	究究	指指	導導	I	2
									II	2
生生生生生	涯涯	學學	學學	習習	習習	論論	習習	I	2	
								II	2	
	涯涯	學學	習習	習習	論論	演演	習習	I	2	
								II	2	
	涯涯	學學	習習	論論	研研	究究	指指	導導	I	2
									II	2
教教教教教教教教教教	育育育育	方方方方	法法法法	法法法法	學學學學	演演演演	習習習習	I	2	
								II	2	
								III	2	
								IV	2	
	育育育育	方方方方	法法法法	學學學學	演演演演	習習習習	I	2		
							II	2		
							III	2		
							IV	2		
	育育	方方	法法	學學	研研	究究	指指	導導	I	2
									II	2
教教教教教教教教教教教教教教	科科科科科科	教教教教教教	教教教教教教	育育育育育育	學學學學學學	演演演演演演	習習習習習習	I	2	
								II	2	
								III	2	
								IV	2	
								V	2	
								VI	2	
	科科科科科科	教教教教教教	育育育育育育	學學學學學學	演演演演演演	習習習習習習	I	2		
							II	2		
							III	2		
							IV	2		
							V	2		
							VI	2		
科科	教教	育育	學學	研研	究究	指指	導導	I	2	
								II	2	
特特	別別	支支	援援	教教	育育	論論		I	2	
								II	2	

授 業 科 目										単 位
特	別	支	援	教	育	論	演	習	I	2
特	別	支	援	教	育	論	演	習	II	2
特	別	支	援	教	育	論	研	究	I	2
特	別	支	援	教	育	論	研	究	II	2
幼		児		教	育		学		I	2
幼		児		教	育		学		II	2
幼		児	教	育	学	演	習		I	2
幼		児	教	育	学	演	習		II	2
幼	児	教	育	学	研	究	指	導	I	2
幼	児	教	育	学	研	究	指	導	II	2
教		育		学		特		論		2
課		題		研		究		I		2
課								II		2

(4) 英文学専攻

授 業 科 目										単 位
イ	ギ	リ	ス	文	学	研	究	I		2
イ	ギ	リ	ス	文	学	研	究	II		2
イ	ギ	リ	ス	文	学	研	究	III		2
イ	ギ	リ	ス	文	学	研	究	IV		2
イ	ギ	リ	ス	文	学	研	究	V		2
イ	ギ	リ	ス	文	学	研	究	VI		2
イ	ギ	リ	ス	文	学	研	究	I		2
イ	ギ	リ	ス	文	学	研	究	II		2
イ	ギ	リ	ス	文	学	研	究	III		2
イ	ギ	リ	ス	文	学	研	究	IV		2
イ	ギ	リ	ス	文	学	研	究	V		2
イ	ギ	リ	ス	文	学	研	究	VI		2
イ	ギ	リ	ス	文	学	研	究	I		2
イ	ギ	リ	ス	文	学	研	究	II		2
ア	メ	リ	カ	文	学	研	究	I		2
ア	メ	リ	カ	文	学	研	究	II		2
ア	メ	リ	カ	文	学	研	究	III		2
ア	メ	リ	カ	文	学	研	究	IV		2
ア	メ	リ	カ	文	学	研	究	I		2
ア	メ	リ	カ	文	学	研	究	II		2
ア	メ	リ	カ	文	学	研	究	III		2
ア	メ	リ	カ	文	学	研	究	IV		2
ア	メ	リ	カ	文	学	研	究	I		2
ア	メ	リ	カ	文	学	研	究	II		2

授 業 科 目									単 位
英	語	学	研	究	I	2			
英	語	学	研	究	II	2			
英	語	学	研	究	III	2			
英	語	学	研	究	IV	2			
英	語	学	研	究	V	2			
英	語	学	研	究	VI	2			
英	語	学	研	究	I	2			
英	語	学	研	究	II	2			
英	語	学	研	究	III	2			
英	語	学	研	究	IV	2			
英	語	学	研	究	V	2			
英	語	学	研	究	VI	2			
英	語	学	研	究	I	2			
英	語	学	研	究	II	2			
応	用	言	語	学	研	究	I	2	
応	用	言	語	学	研	究	II	2	
応	用	言	語	学	研	究	III	2	
応	用	言	語	学	研	究	IV	2	
応	用	言	語	学	研	究	V	2	
応	用	言	語	学	研	究	VI	2	
応	用	言	語	学	研	究	VII	2	
応	用	言	語	学	研	究	VIII	2	
応	用	言	語	学	研	究	I	2	
応	用	言	語	学	研	究	II	2	
英	語	英	文	学	特	殊	講	義	I
英	語	英	文	学	特	殊	講	義	II
英	米	文	化	研	究	I	2		
英	米	文	化	研	究	II	2		
英	米	文	化	研	究	III	2		
英	米	文	化	研	究	IV	2		
英	米	文	化	研	究	V	2		
英	米	文	化	研	究	VI	2		
課	題	研	究	I	2				
課	題	研	究	II	2				

2. 博士後期課程

(1) 心理学専攻

授 業 科 目	単 位
精 神 生 理 学 特 殊 研 究 研 究 指 導	4
人 格 心 理 学 特 殊 研 究 研 究 指 導	4
知 覚 心 理 学 特 殊 研 究 研 究 指 導	4
学 習 心 理 学 特 殊 研 究 研 究 指 導	4
臨 床 心 理 学 特 殊 研 究 研 究 指 導	4
認 知 心 理 学 特 殊 研 究 研 究 指 導	4
社 会 心 理 学 特 殊 研 究 研 究 指 導	4
発 達 心 理 学 特 殊 研 究 研 究 指 導	4
教 育 心 理 学 特 殊 研 究 研 究 指 導	4
応 用 心 理 学 特 殊 研 究 研 究 指 導	4
心 理 学 特 殊 研 究 特 講	2

(2) 英文学専攻

授 業 科 目	単 位
イ ギ リ ス 文 学 特 殊 研 究 研 究 指 導	4
ア メ リ カ 文 学 特 殊 研 究 研 究 指 導	4
英 語 学 特 殊 研 究 研 究 指 導	4
応 用 言 語 学 特 殊 研 究 研 究 指 導	4
英 語 英 文 学 特 殊 研 究 特 講	2
英 語 学 特 殊 研 究 特 講	2
応 用 言 語 学 特 殊 研 究 特 講	2

人文科学研究科授業科目担当専任教員の研究分野及び研究テーマ

人文科学研究科の専任教員の研究分野及び研究テーマは、以下のとおりです。なお、「研究指導」の授業科目を担当できる教員は、担当教員欄に〈研究指導教員〉と示しています。

(2025年4月1日現在)

〈注〉担当教員欄の「D」は博士後期課程、「M」は博士前期課程（修士課程）を示す。

心理学専攻

研究分野	担 当 教 員	研 究 テ ー マ
精 神 生 理 学	古 満 伊 里 〈D・Mの研究指導教員〉 Ph. D. in Experimental Psychology	① ポリグラフ検査手法に関する研究 ② パーソナリティの生理心理学 ③ 情動の身体性について
認 知 心 理 学	増 田 尚 史 〈D・Mの研究指導教員〉 博士（学術）	① 視覚的な単語認知過程 ② 行動のプランニング ③ 漢字学習の支援
社 会 心 理 学	中 西 大 輔 〈D・Mの研究指導教員〉 博士（文学）	① 小集団における意思決定、問題解決 ② 社会的学習の適応基盤に関する理論研究 ③ 適応的リスク対処方略の学習に関する研究
発 達 心 理 学	鈴 木 亜由美 〈D・Mの研究指導教員〉 博士（教育学）	① 幼児期における社会性の発達 ② 自己調整機能の自己抑制的側面と自己主張的側面 ③ 他者の意図理解と道徳判断
臨 床 心 理 学	内 野 悌 司 〈D・Mの研究指導教員〉	① レジリエンスとエンパワメントに関する研究 ② ピア・サポートの実践と研究 ③ 自殺対策の実践と研究 ④ 被害者支援の実践と研究
教 育 心 理 学	西 野 泰 代* 〈Mの研究指導教員〉 博士（心理学）	① 児童・生徒の問題行動が生起する際の心理的プロセス ② 青年期の対人関係 ③ いじめ・関係性攻撃を規定する要因とその予防教育 ④ 感情コンピテンス
進 化 心 理 学	横 田 晋 大 〈Mの研究指導教員〉 博士（文学）	① 集団間葛藤および差別・偏見をもたらす心理メカニズムの解明 ② 集団行動における男女差の実験的検討 ③ 攻撃性に関連する性格特性における実験・調査研究
臨 床 心 理 学	児 玉 恵 美 〈Mの研究指導教員〉	① 精神分析理論に基づいた精神病理の理解 ② 投影法を用いた調査研究 ③ 心理療法における境界に関する研究
臨 床 心 理 学	養 崎 浩 史 〈Mの研究指導教員〉	① 発達障がい児・者に対する認知行動療法の効果に関する研究 ② ペアレント・トレーニングの効果に関する研究 ③ 子どもの社会的スキル・問題解決スキルに関する研究 ④ 子どもの抑うつ・不安・怒りに関する研究

研究分野	担当教員	研究テーマ
臨床心理学	森 平 准 次 〈Mの研究指導教員〉 博士（学術）	① 心理療法における変容の機序の臨床心理学的研究 ② イメージによる心理療法 ③ 青年期の心理学的課題
臨床心理学	義 田 俊 之 〈Mの研究指導教員〉	① 侵入思考とそれへの対処法 ② 摂食障害の症状構造 ③ 学校コミュニティにおける心理職の活動・機能
臨床心理学	藤 川 卓 也	① 身体を用いる臨床心理学的アプローチの作用メカニズムの解明

* 2025年度末退職予定

社会学専攻

研究分野	担当教員	研究テーマ
国際社会学 文化人類学	高 田 峰 夫 〈Mの研究指導教員〉 博士（社会学）	① 南アジア社会・ムスリム研究の比較 ② エリア・スタディーズ ③ 宗教と社会をめぐる諸問題
社会問題論	野 村 浩 也 〈Mの研究指導教員〉	① 沖縄問題 ② カルチュラルスタディーズ ③ ポストコロニアリズム
現代社会論 社会学理論 社会学研究法	中 根 光 敏 〈Mの研究指導教員〉	① 都市問題の変容 ② サービス化現象の展開 ③ 現象学的社会学理論
コミュニティ論	河 口 和 也 〈Mの研究指導教員〉	① コミュニティの形成および変容過程 ② ジェンダー／セクシュアリティ研究 ③ 文化と政治をめぐる諸問題
社会意識論	狩 谷 あゆみ 〈Mの研究指導教員〉	① 社会意識の変容 ② 犯罪社会学
コミュニケーション論	山 里 裕 一 〈Mの研究指導教員〉	① 日本製アニメーションの表現様式 ② 日本におけるポップカルチャーの文化的変容
感情社会学	田 中 慶 子 〈Mの研究指導教員〉 博士（学術）	① 労働の変容 ② 「女性」と労働と消費 ③ 医療化・心理学化する社会 ④ 接客業を中心とした感情労働研究
都市社会学 エスニシティ研究	伊 藤 泰 郎 〈Mの研究指導教員〉 博士（社会学）	① 日本の民族的マイノリティの研究 ② パーソナルネットワーク研究
社会問題の社会学	仁井田 典 子 〈Mの研究指導教員〉 博士（社会学）	① 労働や雇用の変化によって生じる社会問題 ② 個人化社会における生きにくさと社会的排除 ③ 新しい労働運動

教育学専攻

研究分野	担当教員	研究テーマ
教科教育学	木村 恵子* 〈Mの研究指導教員〉 博士（教育学）	① 昭和初期における算術教育の史的研究 ② 算数・数学授業の質的研究－教師の知－
教科教育学	永田 成文 〈Mの研究指導教員〉 博士（教育学）	① 持続可能な社会を目指す市民性を育成する社会科教育
教育方法学 教育工学	西森 章子 〈Mの研究指導教員〉 博士（人間科学）	① 思考を育てる教材・授業の開発と評価 ② 教師の成長プロセスの解明
特別支援教育論	樋口 和彦 〈Mの研究指導教員〉 博士（心理学）	① 生態心理学・文化心理学の視点からの発達支援 ② 障害児心理学
教育哲学 教育人間学	宮崎 康子 〈Mの研究指導教員〉	① バタイユ思想における教育と異質性 ② 子どもの人間学としての「悪」の体験
生涯学習論	山川 肖美 〈Mの研究指導教員〉	① 経験学習理論の研究 ② 生涯学習の評価研究
教育社会学	木村 和美 博士（人間科学）	① マイノリティと教育 ② 人権教育 ③ 道德教育
幼児教育学	光本 弥生	① 幼小「接続期」の教育プログラム研究 ② 虚構場面の創造と教育的意義
教科教育学	松崎 雅広 博士（理学）	① 乳幼児期からの科学教育に関する研究 ～生涯学習としての科学教育～ ② 生命を大切にする科学教育

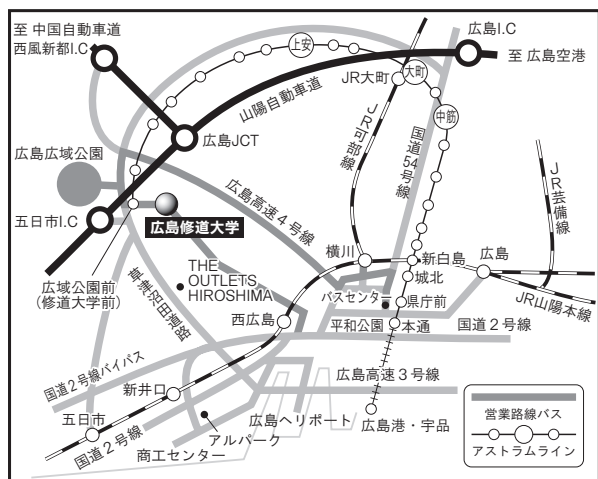
* 2025年度末退職予定

英文学専攻

研究分野	担当教員	研究テーマ
イギリス文学	石井 善洋 〈Mの研究指導教員〉	① サミュエル・ジョンソン研究 ② 18世紀の英文学と時代思潮の研究
イギリス文学	佐川 昭子 〈Mの研究指導教員〉 博士（英文学）	① シェイクスピア ② 世界の演劇
Applied Linguistics	James M. Ronald 〈D・Mの研究指導教員〉 Ph. D. in Vocabulary	① Vocabulary Acquisition ② Lexicography
英語学	水野 和穂 〈D・Mの研究指導教員〉 博士（文学）	① 英語の多様性と変化 ② 英語史（特に近代英語研究） ③ コーパス言語学

研究分野	担 当 教 員	研 究 テ ー マ
アメリカ文学	塩 田 弘 〈D・Mの研究指導教員〉 博士（学術）	① ネイチャーライティング（自然をテーマとした文学の研究）
応 用 言 語 学	大 澤 真 也 〈Mの研究指導教員〉	① 英語リテラシー ② eラーニングの活用 ③ 語用論
応 用 言 語 学	戸 出 朋 子 〈D・Mの研究指導教員〉 博士（学校教育学）	① 教室内第2言語習得 ② 用法基盤の第2言語習得 ③ タスクを活用した英語教育とその学習プロセス
通 訳 翻 訳 研 究	石 塚 浩 之 〈Mの研究指導教員〉 博士（文学）	① 通訳翻訳の認知プロセス（特に同時通訳） ② オンラインの発話理解における意味構築
英 語 学	BARRS, Keith 〈Mの研究指導教員〉 Ph. D	① 日本語における英語外来語
応 用 言 語 学	阪 上 辰 也 博士（教育学）	① 英語関係詞節の習得 ② 英語定型表現の理解と産出の過程 ③ 英語学習用ICT教材の開発と評価
アメリカ文学	西 光 希 翔	① 現代アメリカ文学 ② アフリカ系アメリカ文学

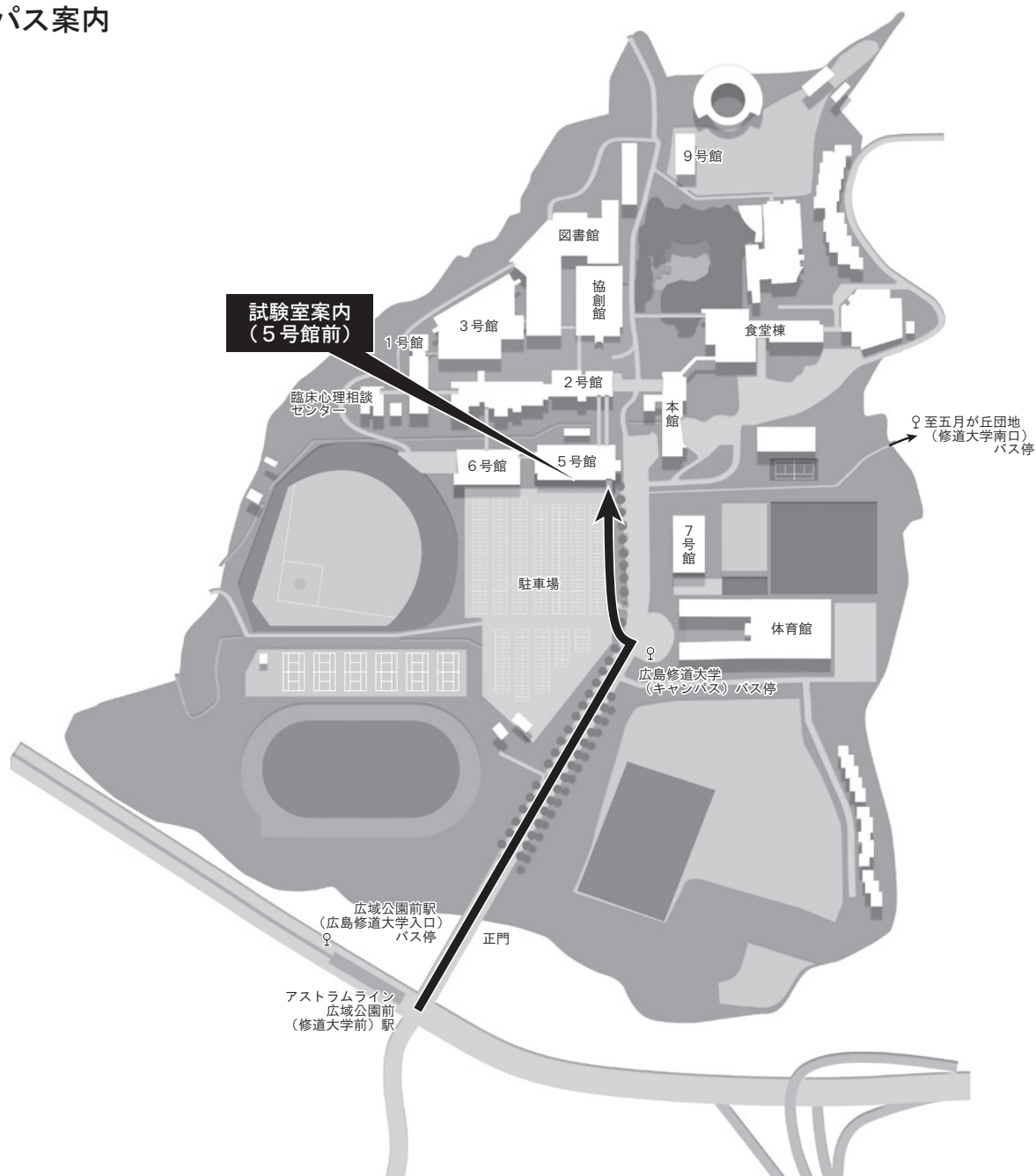
本学への交通案内



アストラムライン 県庁前駅		約 36 分		アストラムライン		広域公園前駅 (修道大学前)
広島駅	約 3 分	新白鳥駅	約 32 分	アストラムライン		
	JR山陽本線 JR可部線		大町駅	約 18 分	アストラムライン	
	約 25 分			JR可部線		
広島バスセンター	約 5 分	横川駅	約 19 分	アストラムライン		広島修道大学 キャンパス バス 停
	JR山陽本線 JR可部線		広島バス「免許センター・ジアウトレット広島行」 (広島高速4号線 経由)	約 7 分		
	約 24 分 (ジアウトレット広島を経由するバスの場合約32分)				アストラムライン	
西広島駅	ボンパス「五月が丘団地行」					五月が丘団地 (修道大学南口)
広島港品	約 30 分	本通	約 37 分	アストラムライン		広域公園前駅 (修道大学前)
	市内電車 (■広島駅西広島行き)		アストラムライン			
マイカー利用	五日市IC 左に出て沼田方面へ向かってすぐ					

* 曜日によって運行されないものもありますので十分注意してください。

キャンパス案内



受験上の注意

- (1) 試験当日は、試験開始20分前までに、試験室に入室してください。
- (2) **筆記試験においては、試験開始後20分以上の遅刻者は受験を認めません。**
また、口述試験および面接試験においては、試験開始時刻を経過した場合は、受験を認めません。
- (3) **1限目の試験を受験しないと、2限目以降の受験は認められませんので注意してください。**
- (4) 受験票は必ず携行して、各時限とも机の上に置いてください。
- (5) 受験票を忘れたり紛失した場合は、入試本部に申し出てください。
- (6) 黒鉛筆、シャープペンシル、消しゴム、鉛筆削り、時計、メガネ、ハンカチ、ティッシュペーパー（袋または箱から中身だけ取り出したもの）、目薬以外の使用はできません（持ち込み可の辞書類は除く）。
- (7) 漢字や英単語がプリントされている衣服は着用しないでください。
- (8) 不正行為者には退場を命じ、全科目を無効とします。
- (9) 携帯電話等の電子機器類は、試験室に入る前に必ずアラームの設定を解除し、電源を切ってカバン等に入れてください。試験時間中にこれらをカバン等に入れずに、身につけていたり手に持っていたりすると不正行為になります。また、試験時間中にイヤホンを着用している場合も、不正行為になります。
- (10) 試験時間の途中での退室は認めません。試験室においては、すべて試験監督者の指示にしたがってください。
- (11) 試験室には壁掛時計を設置していません。時計を持参してください。なお、計算機能や辞書機能および通信機能付きの時計は使用できません。また、携帯電話等は時計として使用できません。
- (12) 台風や積雪等による気象状況の悪化、感染症等により入学試験実施が危ぶまれる場合は、本学ホームページ（<https://www.shudo-u.ac.jp>）および入試情報サイト（<https://www.shudo-u.ac.jp/admissions/>）にて延期および開始時間繰り下げ等の対応をお知らせしますので必ずご覧ください。

（自筆・ボールペンで記入すること。該当するものを○で囲むこと。）

※印は記入しないこと

+

研究科・専攻		募集時期		入試制度		受験番号					
R81	心理学専攻心理科学領域	1	第1次募集	1	一般	※					
R91	心理学専攻臨床心理学領域			2	外国人留学生						
R31	社会学専攻			3	社会人						
R51	教育学専攻	2	第2次募集	4	学部生推薦						
R71	英文学専攻			5	シニア特別（社会学専攻のみ）						
ふりがな						生年月日		性別			
氏名		(姓)		(名)		西暦年		月	日	1	男
										2	女
現住所 (連絡先)		(郵便番号)		都・道 府・県		TEL ()		-			
						携帯 ()		-			
入学資格				大学		学部 ()		学科 専攻			
				年 月		卒業・卒業見込					
履歴 (学歴及び職歴) について記入				年 月							
				年 月							
				年 月							
				年 月							
				年 月							
				年 月							

+

(切り取らず二ツ折にして提出のこと)

受験票(B)

2026年度 広島修道大学大学院 人文科学研究科博士前期（修士）課程		
1. 心理学専攻	心理科学領域	1. 一般
2. 心理学専攻	臨床心理学領域	2. 外国人留学生
3. 社会学専攻		3. 社会人
4. 教育学専攻	(志望専攻を) (○で囲むこと)	4. 学部生推薦
5. 英文学専攻		5. シニア特別 (該当するものを○で囲むこと)
受験番号	※	
ふりがな		
氏名		
受験科目	選択外国語 (社会学専攻の外国人留学生入試のみ記入)	
※検定料領収印		
(本票をもって検定料の領収書とします)		

照合票(C)

2026年度 広島修道大学大学院 人文科学研究科博士前期（修士）課程		
1. 心理学専攻	心理科学領域	1. 一般
2. 心理学専攻	臨床心理学領域	2. 外国人留学生
3. 社会学専攻		3. 社会人
4. 教育学専攻	(志望専攻を) (○で囲むこと)	4. 学部生推薦
5. 英文学専攻		5. シニア特別 (該当するものを○で囲むこと)
受験番号	※	
ふりがな		
氏名		
受験科目	選択外国語 (社会学専攻の外国人留学生入試のみ記入)	
※検定料領収印		
カラー写真貼付欄 上半身脱帽正面で、最 近3か月以内に撮影し たもの (4 cm × 3 cm) 写真の裏面に氏名と志 願研究科・専攻を明記 し、貼付してください。		

(切り取り提出のこと)

（自筆・ボールペンで記入すること。該当するものを○で囲むこと。）

※印は記入しないこと

研究科・専攻		入 試 制 度				受 験 番 号							
S11	心理学専攻	1	一般			※							
S71	英文学専攻	2	外国人留学生										
ふ り が な						生 年 月 日				性 別			
氏 名		(姓)		(名)		西 暦 年		月		日		1	男
												2	女
現 住 所 (連絡先)		(郵便番号 -) 都・道 府・県				TEL () -						-	
入 学 資 格		大学大学院				研究科				専攻			
		年 月				修了・修了見込							
履 歴 (学歴及び職歴) について記入 ※欄が不足する場合は、 任意書式（A4）に て添付ください。		年 月											
		年 月											
		年 月											
		年 月											
		年 月											

（切り取らず二ツ折にして提出のこと）

受 験 票（B）

2026年度 広島修道大学大学院 人文科学研究科博士後期課程	
1. 心理学 専攻 (志望専攻を ○で囲むこと)	1. 一般 2. 外国人留学生 (該当するものを○で囲むこと)
2. 英文学 専攻	
受験番号	※
ふりがな	
氏 名	
※検定料領収印	
(本票をもって検定料の領収書とします)	

照 合 票（C）

2026年度 広島修道大学大学院 人文科学研究科博士後期課程	
1. 心理学 専攻 (志望専攻を ○で囲むこと)	1. 一般 2. 外国人留学生 (該当するものを○で囲むこと)
2. 英文学 専攻	
受験番号	※
ふりがな	
氏 名	
カラー写真貼付欄 上半身脱帽正面で、最 近3か月以内に撮影し たもの (4 cm × 3 cm) 写真の裏面に氏名と志 願研究科・専攻を明記 し、貼付してください。	※検定料領収印

研究計画書

自筆で記入のこと（文書作成ソフトでの作成も可）

氏名		志望専攻	専攻	受験番号	*
志望研究 テーマ					

*印は記入しないこと

研究計画の概要（具体的に記入すること）

+

+

+

+

(切り取り提出のこと)

研 究 計 画 書

氏名		志望専攻 (領域)	(専攻 領域)	受験番号	*
志望研究 テーマ	(希望する研究指導教員：) 注) 入学後の研究指導教員を保証するものではありません				
〈一般入学試験・外国人留学生入学試験〉 博士前期課程：日本語で2,000字程度または英語で1,200語程度) 志望理由、卒業論文（卒業研究）等の研究概要、研究テーマおよび計画、本課程修了後の希望進路について 博士後期課程：日本語で1,200字程度または英語で800語程度) 研究テーマ、志望理由および本課程修了後の希望進路について 〈学部生推薦入学試験〉(2,000字程度で具体的に記述) 志望理由、研究の目標および計画について 〈社会人入学試験〉(2,000字程度で具体的に記述) 志望理由、研究テーマおよび計画について					

*印は記入しないこと

(切り取り提出のこと)

+

+

(切り取り提出のこと)

推 薦 書

受験番号＊

氏 名

大学 学部 学科

年 月卒業見込

上記学生は、広島修道大学大学院人文科学研究科の「学部生推薦入学試験」志願者として適格と認め、推薦いたします。

推薦する領域
(○で囲む)

心理学領域 ・ 臨床心理学領域

年 月 日

所属機関名

推薦者職名・氏名

印

＊印は記入しないこと

推 薦 書

受験番号＊

氏 名

大学 学部 学科

年 月卒業見込

上記学生は、広島修道大学大学院人文科学研究科の「学部生推薦入学試験」の出願要件を満たしていますので、推薦いたします。

年 月 日

所属機関名

推薦者職名・氏名

印

＊印は記入しないこと

〈シニア特別入学試験用〉
 〈社会人入学試験用〉（希望者のみ記入）

長期履修学生願

日付・署名を記入し、押印してください。

受験番号	* (記入しない)	氏 名	
------	-----------	-----	--

希望する修業年限	3 年 ・ 4 年 (希望する修業年限を○で囲んでください。)
申請の理由	

年 月 日 署 名 印

(切り取り提出のこと)

履 歴 書

日付・署名を記入してください。

受験番号	*	氏 名	
------	---	-----	--

学 歴	年 月 日	
	年 月 日	
	年 月 日	
	年 月 日	
	年 月 日	
	年 月 日	
	年 月 日	
	年 月 日	
	年 月 日	
職 歴	年 月 日	
	年 月 日	
	年 月 日	
	年 月 日	
	年 月 日	
	年 月 日	
	年 月 日	
	年 月 日	
	年 月 日	
	年 月 日	

年 月 日 署 名

- (注意)
- 1. 学歴欄は、高校卒業から記入してください。
 - 2. 学歴・職歴は、空白期間のないように記入してください。
 - 3. 職歴は、職名・地位等まで正確に記入してください。

(切り取り提出のこと)

履 歴 書

RESUME

※印は記入しないこと

氏 名 Full name					受験番号※	
生 年 月 日 Date of Birth	(month)	(day)	(year)	性別 Sex	男 女 Male Female	ColorPhoto(写真) 上半身脱帽正面で、 3 か月以内に撮影 したものを貼付し てください。 (4 cm× 3 cm) Taken within 3 months, half length, without hat, full front face.
国 籍 Nationality			現 在 所 有 の ビ ザ Status of Residence			
日本語能力 (○で囲む) Knowledge of Japanese (Circle)	優 Excellent	良 Good	可 Fair	不可 Poor		
日本語を学習した学校・機関名を記入すること。Name the school and/or facilities where you learned Japanese. 学校名 期 間 (month)(year) (month)(year) School Term From . To .						
+ 学歴 Educational Background (注) 小学校から始めて、通学したすべての学校を年代順に記入すること。 Note: List, in chronological order, all the schools you attended starting with Elementary (Primary) School.						
学 校 名 School		学 校 所 在 地 Location		在 学 期 間 Period of Attendance (month)(year) (month)(year) . To .		
				. To .		
				. To .		
				. To .		
				. To .		
+ * 欄が不足する場合は、任意書式 (A 4) にて添付すること。						
職 歴 Occupational experience		勤 務 先		所 在 地		期 間 (month)(year) (month)(year) . To .
						. To .
						. To .
兵 役 Military Background 終 了 Inducted		(month) (year) .		その他 Other remarks		
日本における住所 Address in Japan						
本国における住所 Home Address						

留学にかかる収入予定書
STATEMENT OF SOURCE OF FUNDS

氏 名 (Full name)		国 籍 (Nationality)	受験番号 (Application No.)
			(記入しない) ※
志望研究科 (Postgraduate course)	専 攻 (Major)		課 程 (Course)

1 年間の留学にかかる学費・生活費の支払い方法について記述すること。
(State the source of funds to cover all the expenses required for one-year study in Japan)

[収入項目]
Source of funds

現金 (Cash)

預 金 (Deposit)

送 金 (Remittance)

奨 学 金 (Scholarship)

☆合 計 (Total)

署 名
Signature

[金 額]
Amount

¥

¥

¥

¥

¥

¥

¥

(切り取り提出のこと)

広島修道大学大学院

諸納付金減免申請書

年 月 日

学校法人 修道学園
理事長 林 正 夫 様

私は、広島修道大学大学院への入学を希望します。入学した際には、広島修道大学大学院諸納付金納入規程第3条第2項に基づき、下記の理由により諸納付金を減免していただきたく、申請します。記載内容に虚偽があった場合は申請を取り下げ、正規の諸納付金を納付します。

志 望 研 究 科	研究科		専攻	課程
受 験 番 号		出身の国、地域		
氏 名		性 別	男 ・ 女	
アルファベット氏名 ※在留カード記載の氏名		生 年 月 日	年 月 日	
住 所	〒 - TEL () - -			
母 国 住 所				
在学予定期間	年 月 ~ 年 月			
諸納付金の減免を 希望する理由 *具体的に記入すること				

(切り取り提出のこと)

【経済状況】

1. 母国から入学金、在学料等以外の仕送りがありますか（○をしてください）

はい（月額 万円） ・ いいえ

2. 在日扶養者はいますか（○をしてください）

はい（年収 万円） ・ いいえ

3. 1か月の平均収入・支出状況（入学後の予定）

収 入		支 出	
項 目	金 額	項 目	金 額
アルバイト収入	円	勉 学 費	円
母国からの送金	円	住 居 費	円
在日扶養者からの収入	円	光 熱 水 費	円
奨 学 金	円	食 費	円
そ の 他	円	そ の 他	円
合 計※	円	合 計※	円

※ 合計には、入学金及び在学料等を含めること。また、収入と支出の合計金額は同じにすること。

【奨学金受給状況】

現在受けている奨学金、または受ける予定の奨学金があれば、その名称、受給期間および受給金額を記入してください。

奨学金名称 _____

受 給 期 間 _____ 年 _____ 月 ～ _____ 年 _____ 月

受 給 金 額 月額 _____ 円

【在留資格の確認】

- ☐ 在留カードまたはパスポートの該当ページのコピーを添付しましたか。
- ☐ 現在の在留資格が「留学」以外の方は、事前に国際センターに連絡しましたか。

本申請書に記載の個人情報は、諸納付金減免申請手続きの目的にのみ使われます。

〒731-3195 広島市安佐南区大塚東一丁目1番1号 広島修道大学 入学センター

TEL 082-830-1100